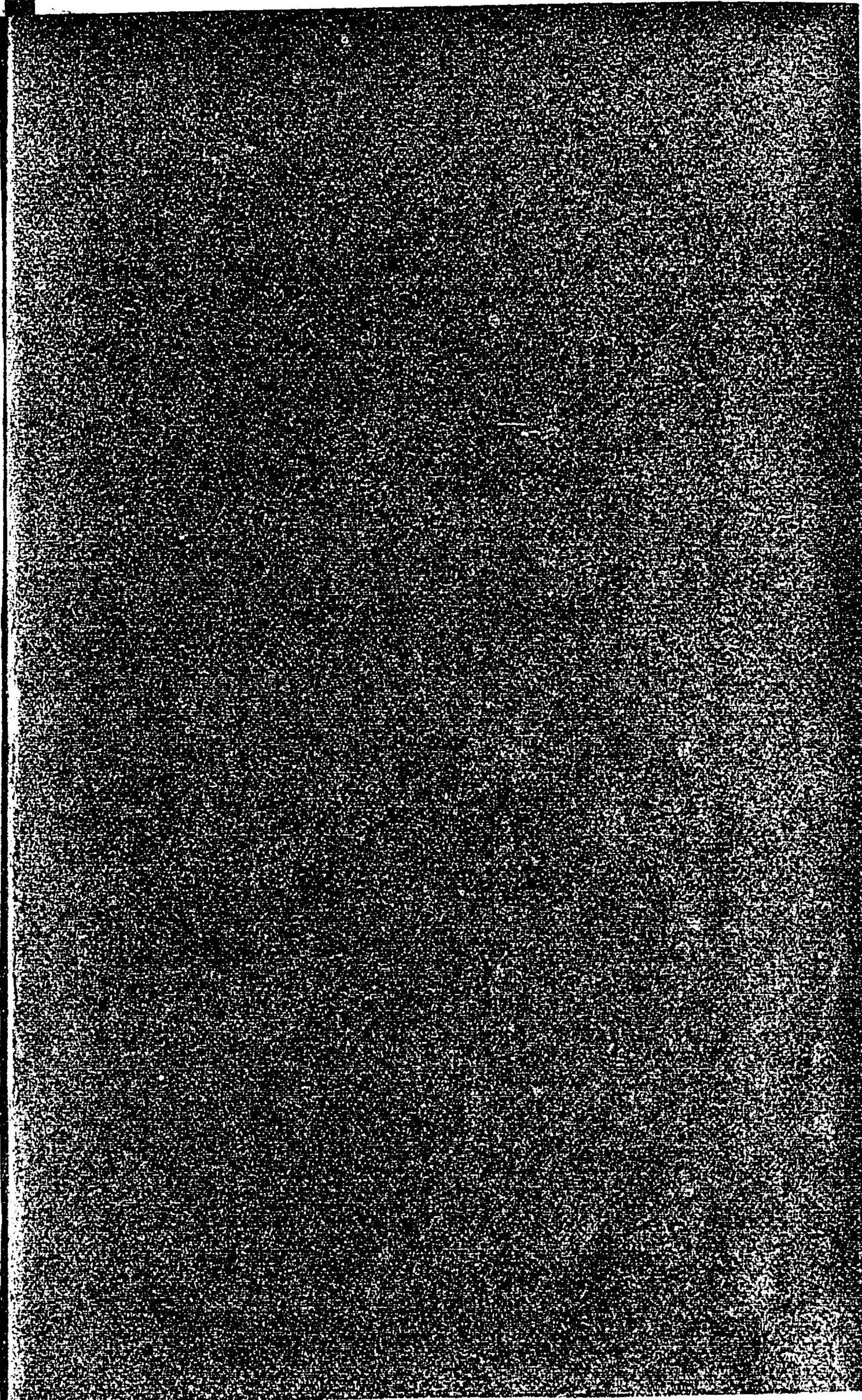
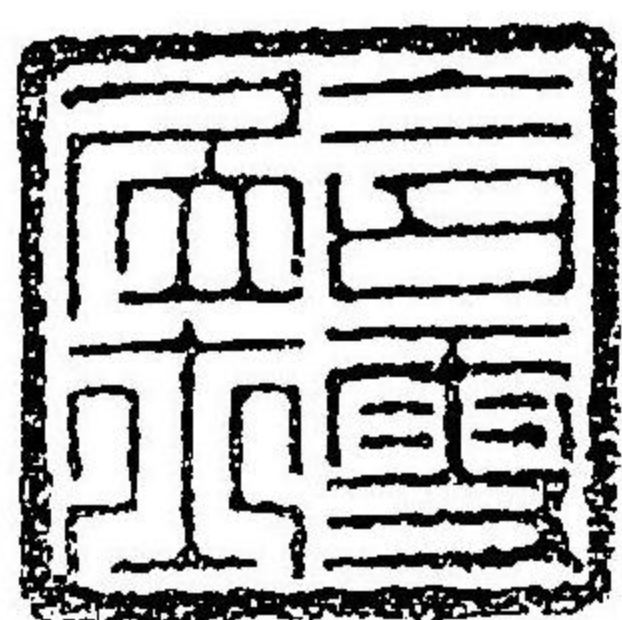


茶



神

癸卯晚秋
金雷題



序

京都日出新聞記者宮野古愚子其著『名家訪問録』を携へ、來つて序を余に徵す、披て而して之を見みれば、乃ち曩きに『京都策』と題して、同新聞紙上に連載せし處のもの、市行政談あり、遊廓移轉論あり、道路談あり、西陣論あり、學問と工業の關係を説けるあり、教育と實業の關係を論するあり、歴史と思想の變遷を語るあり、歐洲都市の狀況を述る又頗る詳なるあり、其

他何れも皆各方面の名士が、各其平生蘊蓄せる處の意見を吐露せるもの、吾人當府の局に當る者、又聊か所感無くんばあらざるなり。新人物を輸入し新智識を歓迎すべしと疾呼せるは、各論者殆んど符節を合するが如し、是れ固より至論、今日に當つて誰れか又之を否定する者ぞ、然れども吾人を以て之を見る、齊しく是れ日本國民なり、均しく是れ京都市人なり、特に移住民と土着人とを區別するの要、

果して那邊にか存す、今日に當つて思想の新舊を論し、急進過激と呼び、頑冥固陋と叫ぶ、抑も既に謬れり、要は唯だ左提右携協心戮力、其間亦寸毫も彼我の別なく、能く時勢の進運に伴ひて共に與に此地の繁榮發達を期する所以の途を講究するにあるのみ、斯の如くにして市政の刷新初めて希ふ可く、事業の勃興初めて期して待つ可き也、而して此間に於て、能く之を啓發誘導し、能く相互の調和を現實な

らしむるものは、實に社會操觚者當然の責務なりとす、今子の此著ある、蓋し亦茲に見るありて然る歟。

抑も斯篇收むる處の各名士の所論、未だ必ずしも悉く之を實地に應用し得可き者のみにあらざるなり、而も既に衷に慨世愛國の誠あり、發して而して經世の言論となる、皆以て他山の石たらざるなく、以て市民机上の珍となす可く、以て爲政者帳中の參考資料に供す可

し、吾人は今日に當つて斯書の公刊せらるゝを喜ぶと俱に累ねて子の勞を多とす、故に敢て一言を題して序文に代ふと云爾。

明治癸卯晚秋於洛陽之僑居

虚星 大森鍾一識

名家訪問録（京都策）

目次

元市参事員 東枝吉兵衛氏の市行政談……………一頁

隣保共同の制。特別市制撤去當時の抱負。教育費の膨脹。教育界の前途。學制改革の必要。矛盾の市會。無責任の市参事會。無方針の市政。關西文化の中心。

博士田島錦次氏の論評……………十六頁

地方費の膨脹とは何ぞや。代議士の任務。木屋町繁榮策。個人の權利と社會の權利。と茶屋根性の教育。舞妓禁止論。藝妓資格論。

第三高等學校長 折田彦市氏の遊廓移轉論……………二十四頁

京都の紳士紳商。寧ろ粗野なれ。教育と家庭の關係。遊廓移轉の必要。姑息の反對論。工業地としての京都。

目次

博士中澤岩太氏所論

三十二頁

今日の京都人と京都を論ずる能はず。近く大阪を見よ。自から滅亡の期を早め居れり。京都の實業家京都の學生。工業地たるを遊樂地たるを論ずるの要なし。遊廓雪隠論。遂に濟度の見込なし。

博士山口銳之助氏談論

四十二頁

蜘蛛主義の商人。耻辱を知らざる商人。京都の物價。玄關主義の教育。素町人の舊慣と武士の習慣。雪隠を客座敷に應用。遊廓の女子に及ぼす感化。遊廓取締法私見。意氣地なき市民。伊太利人と京都人。他地方人を歓迎するの外なし。

工學士井上秀二氏の道路談

五十九頁

道路擴張の必要。都市道路目的の變遷。東京市と京都市。交通機關の種類。京都の道路。京都の電氣鐵道。道路擴張の先例。京都の道路擴張は復舊工事なり。

博士井上密氏の京都觀

八十三頁

京都の現状は後家の生活の如し。一片の同情なきにあらず。遂に第二の奈良たるなき歟。唯一の京都策は積極的實業振興に在り。今の世の教育は抑も既に誤れり。能はざるにあらず爲さざるなり。百萬圓の市費多しとなさず。自重の精神無る可らず。市長と地方長官の位置。社會的制裁の必要。教育地としての京都。

法學士綿貫吉秋氏の西陣論

百頁

都市繁榮の素養。京都の變遷。西陣機業の運轉資金。市の繁榮と西陣機業。機業家と問屋と當局者。西陣と銀行業者。問屋の任務。又一の社會問題。人物輸入の必要。

博士大塚要氏の所見

百十二頁

人力車夫の禮讓。蚤の如き商人。西陣機業家の頑冥無智。所謂京都根性。遊廓業の矛盾。工業の發達せざる一大原因。時間と金錢、京都人と神戸人。徒弟教育の必要。西陣の前途。

工學士金子篤壽氏の論評

百二十七頁

摺取主義敢て不可なし。京都繁榮の基礎。當路者の職責。西陣は瀕死の一大病人。粗食の結果。西陣の前途。徒弟教育の必要。情弱の弊風。京都は日本第一の都市。

博士千賀鶴太郎氏の談話

百四十五頁

來遊外人は京都の獨占にあらず。歐洲都市の裝飾。伯林の市政。歐洲の遊廓。歐洲人の風紀道德と日本の風紀取締。歐洲人の店務監督。獨乙の根本主義。日本人の輕佻浮薄。

博士久原躬弼氏所見

百五十八頁

大學は學問の研究所。獨乙の製産事業と學問。日本人の冷淡。京都の染物業。鐵材の橋と數理の橋。歐洲の製産事業と日本の製産事業。歐洲の學者技術家と日本の學者技術家。西陣の機業。簡易工業學校の必要。

京都鐵道取締役 伴直之助氏の所論

百六十八頁

二十年前の京都市人。第四回博覽會後の京都。人物輸入の必要。所謂紳士紳商の實踐躬行を要す。一致團結の精神無る可らず。圖書館を起し讀書を奨励す可し。俱樂部の必要。

博士木下廣次氏の所論

百七十六頁

新人物新得識は都市興隆の一大要素。歴史的觀念の必要。土着舊人士の任務又重し。佛國人の國家的思想。佛國歴史の紀念。新舊兩思想の調和。京都特有物産の保護奨励。新人物の輸入。歐洲人の土地自慢。日本舊帝都の設備。

舟木宗治氏の市税輕減論

百八十九頁

市費の増加。滯納者の増加。三市民の負擔比較。市費節減の方法。勸儉貯蓄奨励の方法。

兒島定七氏所見

二百一頁

四五年前の余の理想。京都人氣質。京都商業範圍の縮少。京都人の遊樂。京都は有爲の人の居る所にあらず。遊廓論。益々其特長を發揮す可し。西陣策。

名家訪問錄(京都策)目次終

名家訪問録 (京都策)

宮野古愚編

如何にして都市を經營し如何にして都市に住する人々の利益を増進し都市の社會を圓滿ならしむ可き乎とは、歐米の學者經世家の間に於ても目下尙は頻りに研究せられつゝある處の一大問題なり、吾國にても夫の特別市制撤去せられし以來茲に既に五星霜吾京都市の如きは果して之に依りて幾千の利益を得幾千の恩典に浴せしか、今に及んで反省する處あらずんば京都市人は未だ自治の民たる能はずとの譏を免れざるのみならず、千有餘年の帝都として山紫水明の都として誇りつゝある此舊都も遂に第二の奈良たるを免れざるなり、此時に際し世の識者と共に與に之に處する所以の途を講究するは刻下の急務たらずんば非ざるなり、茲に於てか余輩は特に此地

に在る博學達識の人士を訪問して其意見を叩き京都策と題し之を吾京都日出新聞紙上に連載せり然るに其言ふ處何れも皆適切の論議痛快の文字にして尤も能く時弊に適中せざるなく、實に一の京都策たるに止まらずして都市經營策たり、一般實業家の訓戒たり、又青年子弟の教誨たる者少ならずれば更に茲に之を一冊子として汎く世に頒つ事となせり、唯だ編者の不文なる時に或は論者の意を盡さざる者なきを保せず、之れ深く謝する處なり、讀者乞ふ幸に之を諒せよ。

京都日出新聞編輯局樓上に於て

編者識す

元市會員 東枝吉兵衛氏の市行政談

顧みれば今より六年以前生等が先輩諸氏の驥尾に附して特別市政撤去の運動を試みし當時に在りては京都市民の意向は唯だ單に自治の權利を得んと云ふに止まらずして實に吾京都市を以て吾國自治制度の模範たらしめんとすの抱負を有せり、元來吾京都は故檜村知事時代より隣保共同の制尤も能く行はれ、大は教育、衛生、租稅徵收の事等より小は結婚葬祭其他の人事に至る迄悉く隣保組合に依りて處理し例へば町内に於て租稅の滯納者あれば其町内の耻辱として特に町内より之を代償し若し町内に於て傳染病患者を發生すれば隣保の聯帶責任として共に與に豫防の事に盡瘁する等事實の上に於て尤も能く自治制度の行はれつゝありしは全國又其比を見ざりしは何人も認めし處にして若し此良慣を改良發達せしめ加ふるに文明的の自治制度を以てせば吾京都を以て全國自治制度の模範地となす敢て難きにあらざる可しとは實に當時に於ける市民の抱負にして市民が他の二市に卒先

して特別市制撤去の運動に熱心なりし所以の者又實に茲に存せり然るに自から願れば今日の状態果して如何ぞや近く大阪の如き時に或は種々なる失体なきにあらざりしも而も諸般の事業は着々歩を進め既に上下水道の二大工事を了り吾國未曾有の一大工事たる築港工事又殆んど成功し更に進んで其他の事業に着手せんとする等兎に角自治團體として敢て羞る處なく東京市又既に一大公園を起し更に有望の新市長を戴き市政の改善を期せんとする等之れ又吾國唯一の大都會として將來大に望を屬す可き者なきにあらざるなり之に反して吾京都市は自治制度の實施以來果して幾千の事業を爲せしか市民は果して自治の何物たるを解せるか若し生等をして忌憚なく評せしむれば市民は特別市制撤去の爲め得る處の者は唯だ幾多の負擔を増加せしのみにて差引何等の得る處なし市政の前途は暗黒にして何等の希望なし今に及んで善後の處分を講せざれば京都市の前途を奈何せん

と云ふの外なし勿論生等も曾て市參事會の一班に列し市の行政事務に參與したる事あれば市民に對しては此責任を分擔せざる可らざるも市の一公民としては又多少の希望なきにあらざるなり。京都市行政の振はざる所以の者其間種々なる原因なきにあらざるも要するに多數の市民が未だ自治の何物たるを解せず従て市行政に對する徳義心乏しきと局に當る市參事會員諸氏の動もすれば所謂御役人根性にて市民に對する不親切なるの二大原因に依らずんばあらざるなり今之を市の學政に徴するも京都市が各小學校の經濟を分離して學務委員制度の組織とし諸般の事皆之に依りて決する事となしつゝあるは一面より見れば自治制度の主旨に叶ひ又市民の自治思想を發達せしむる所以にして教育の發達普及と云ふ點より見るも又種々なる利益なきにあらざるなり然るに輓近之に伴ふ弊害漸く生じ各組とも競ふて宏壯の校舎を新築し甚だしきは教室の建築に一坪百五拾

圓貳百圓を投じ一ヶ所の門に數千圓を投ずる等徒らに無用の費用を投じて得々たり而して一面には各學區の經費は年々膨脹しツイ數年前迄は全市を通じて參拾萬圓に出でざりし者今日にては殆んど百萬圓に達し而も數年以前に在りては町内より租稅滯納者を生ずるは町内の耻辱なりとし組長其他の有力者より辨償せし市民も今日にては町内組合の事業たる學區費の續々滯納者を生じ滯納處分の爲め區役所吏員の出張を煩はすも平然たるに至れり之れ社會風潮の然らしむる處にして獨り京都市民を咎む可らざる者の如きも更に一步を進めて其茲に至れる原因を討究すれば元來學區經濟は區々に分離するも之に對する豫算は市長に於て編制し學區會の決議を経而して後執行する事となり居れるも豫算の編制事務の執行皆之を學務委員に一任して市長以下各市參事會員市吏員等は殆んど關せざる者の如きは刻下の現狀にあらすや若し市長以下各市參事會諸氏にして各學區の事

務も又自己の管理する處にして其責任は又已れ等に歸する者たる事を知らば少くも時々各學區の事務を巡視し各學區に於て無謀の計をなす者あらば注意を與る位の事はなさいる可らざるなり況や近時學區に於ける紛議は至る處頻々たるに係らず市當局者は學區の紛議は敢て珍しからずと云はぬ計に殆んど對岸の火視しつゝあるが如きの有様なるは決して市行政事務に親切なる者の態度と云ふ能はざるなり。

市當局者の學區に對し冷淡なる事夫れ斯の如し近時學政の漸く紊亂するの傾ある者又決して偶然にあらざるなり幸にして今日の學務委員なる者は比較的其人を得るも名譽職員競争の弊は漸次學區委員に反ばし意外の人の選出せらるが如き事あらしめば其弊害は決して今日に止まらざる可し一念茲に至れば京都市教育界の前途實に寒心に堪へざるなり生は事の順序として先づ京都市の學政に對する自己平

案の所感より一言せざる可らず市の教育経済を各學區に分離するは前述の如く當に市民の自治思想を涵養發達せしむるのみならず經濟的に觀察するも其利益又決して少なからざるなり下京區に於ける第十四學區其他が今日生徒授業料を廢止するも尙ほ優に其經濟を維持しつゝあるが如きも必竟學區經濟を分離せしが爲めにして其他の各學區に於ても着々夫の設備準則に伴ふ準備をなしつゝあるが如きも又全く一種の競争心に驅らるゝが爲めにして若し之を全市の共通經濟とし今の市會今の市參事會に一任せば果して何れの日にか能く其目的を達するかは一の疑問なり然れども又一面より見れば學區經濟の分離に伴ふ弊害又決して尠少ならざるなり京都市普通教育の動もすれば統一を缺き殆んど同一の生徒を有し同一の學級を有する學校にして甲學校は五拾圓の校長を戴き乙學校は貳拾五圓の校長に甘せざる可らざるが如き甲學校は諸般の設備至らざるなく盡さいるなき

に反し乙學校は動もすれば經費の爲め必要の設備すらなす能はざるが如き一市の教育事業として決して公平と云ふ可らざるなり況んや學區經濟分離し各學校は割據の姿なるが爲め校長以下職員の遺練も意の如くならず校長にして學務委員の職務を兼掌するにあらざれば其職に堪る能はず隨て肝腎の教務は兎角御留守となるが如き一種の弊害隨て生じ易きが如き其他の弊害枚擧するに遑わらず此等の點より見れば京都市普通教育の改善を期せんと欲せば一日も速かに全市共通經濟とし市參事會に於て之を統一するに如かざるなり以上は唯だ生が多少の經驗に依る皮相の觀察にして未だ決して確乎たる定論と云ふにあらざるなり然れども市行政の前途に於て學政改革の一事は尤も大なる問題たる事は生の信じて疑はざる處なり左れば癩癩に公同組合幹事會にても此意見を提出して其利害得失を調査せんとせしも不幸にして生の意見は多數の容るゝ處とならざりし唯だ疑ふ今

の市参事會員其他の當局者は果して之れ等の事にも心を傾けつゝありや否やを。

市當局者の不親切は啻だに之に止まらずして、夫の家屋税問題の遂に市會に於て否決せられしが如き獨り市會の責任に止まらずして市参事會も又決して其責を免れざるなり、如何となれば市費經濟は年々膨脹し市民は漸く其負擔に苦みつゝあるの今日不公平なる戸別割に代るに比較的公平なる家屋税を以てす可しとは殆んど市民の輿論にして共同組合幹事も之を市會及び市参事會に建議し市會及び市参事會も又之に賛成し而して後市長の提案として初めて公然市會に附議せらるゝに至れり、然るに市會の多數は今更一部の家主運に動かされ又自己一身の利害より打算して之に反對するに至りしは矛盾の甚だしき者にして市會の多數は寧ろ徳義の何者たるを解せざる者と云ふも不可なし、然れども市参事會員諸氏も既に自から信じて之を市會に提

案せし以上は今少しく親切に調査し今少しく親切に説明し而して市會の多數が尙ほ之を容れざれば更に進んで自から各學區の人民に就き徐ろに其利害得失を説き提案の理由を説明し、先づ以て市民の輿論を喚起し而して後市會を動す位の覺悟なかる可らざるなり、然るに之が爲め市會が如何に紛擾を極め市會の一部が如何に反對の運動を試みるも市會が自から之を建議しながら今更其可否を争ふは矛盾の甚だしき者なり、市會が如何なる決議なすも吾々の關知する處にあらざるなりと云へるが如き態度にて超然主義を氣取りつゝありしは決して市民に親切なる者の態度と云ふ可らざるなり、責任を解する者の行動と云ふ可らざるなり、京都市なる一團体の内輪に於てこそ市會市参事會の區別も存すれど要するに京都市の利害休戚に關し、京都市の体面に關するの一大事件にして外部に對しては又市會市参事會の別あらざるなり、若し市参事會員諸氏にして少しく茲に見る處あらしめば

家屋税問題必しも彼れが如き失体を演ずるに及ばざりしなる可し。次に生等の京都市行政事務の現状に對し杞憂に堪へざるは今の市當局者に一定の方針なき事之なり、確乎たる市是として認む可き者なき事之なり、京都市としての体面を維持するが爲に京都市と皇室との關係に於て又京都の繁榮を將來に維持する上に於て經營せざる可らざるの事業は決して二三に止まらざるなり、然れども今日の京都市として之れ等の事業を一時に擧ぐる能はざれば先づ以て確乎たる方針を定め、一定の市是に依り事の前後緩急を計り徐々に之を經營するの覺悟なかる可らず、然るに今の當局者の處置果して其宜しきを得たりと云ふを得可き乎、今の當局者に果して一定の市是存する乎、京都市會が百萬圓の國庫補助を得て下水工事を起す可しとの決議をなせしは既に數年以前の事にあらずや、然れども目下の國庫經濟に於て容易に其目的を達し得可らざるは少しく事情を解する者の解する處なり、果し

て然らば京都市は徒らに憑む可らざるの國庫補助を憑みとせず、別に計を定めざる可らざるに未だ市當局者が之に對して何等の意見を有するを聞かざるなり、道路の擴張は市の体面に於ても又皇室の關係に於ても是非共起さる可らざるの事業なり、若し果して直ちに工を起す能はざれば豫じめ設計を定めて之を發表し、市民と共に漸次に之に着手するの方針を探るは局に當る者の當然の任務にして、將來工事に着手するの場合に當りても、彼我の便益決して少なからざるなり、此程三井銀行京都支店が四條通り烏丸東に入る處に支店を新築するの設計を定むるに當りても、將來市に於て烏丸通を擴張せば、其道巾は何間にして其何れに取擴げるかを某氏に質問し、僅かに其の道巾は十二間にして、多分東に取擴げるならんとの答を得、初めて建築工事に着手せりと、若し多數の市民にして悉く三井銀行の如き注意あらしめば、必ずしも市當局者に於て深く憂慮するに及ばざる可し、然れども之れ

事實の上に於て有り得可らざるの事なり、多数の市民にして何の遠慮
 會釋もなく道路の兩側に煉瓦石造等の大厦高樓を續々建築するに至
 れば將來其工事を起すに當りて益々多額の費用を要するは又明にし
 て苟も此設計定らざる以上は上下水道は勿論其他道路を使用す可き
 の事業も容易に計畫し得可らざるは亦云ふ迄もあらざるなり、市當局
 者は果して之に對する成算あるや否や、更に市費經濟の上より云ふも
 一時に數百萬圓の經費を支出するは今日の京都市として容易の業に
 あらざるなり、左れば若し今日に於て直ちに之れ等必要の事業に着手
 する能はざれば先づ以て其大計を定め漸次に基金を蓄積して之に充
 つる覺悟なかる可らざるなり、西洞院川に貳拾餘萬圓の市費を投じ東
 寺の附近に砥の如き大道を開鑿せしが如き勿論決して不必要の事業
 にあらざる可し、然れども上下水道道路の開通等は跡廻しとして迄
 之れ等の工事を起さざる可らざるの必要あるか、之れ生等の解する能

はざる處なり。

又深く京都の將來を慮るも近く大阪の一大工業地を控へ之と競争し
 て益々大工業を發達せしむる能はざるは何人も認むる處なり、果して
 然らば如何にして京都の繁榮を將來に維持し何を以て京都市の特色
 となすか、山紫水明の勝景を利用し美人を利用し京都を以て一の公園
 となすも強て不可ならざる可し、四條大橋に電燈裝飾を施し客を引く
 の手段となす、又絶對的に悪事にもあらざる可し、然れども斯の如く輕
 佻浮薄なる一時的の事業にわらずして他に確乎たる方針なかる可ら
 ざるなり、動す可らざるの市是なかる可らざるなり、幸にして京都は夙
 に關西文化の中心を以て稱せられ今又大學、高等學校、高等工藝學校、其
 他幾多の公立學校は續々として建設せられ事實の上に於て一の學校
 地たるの觀を呈するに至れり、吉田町附近の如き一の學校町と稱する
 も不可なき有様なるに至れり、左れば市に於ても此機運を逸せず京都

を以て日本文化の中心とし日本の教育地となすの方針に依りて着々之に對する設備をなすが如き又頗る必要の事なる可し其他市に對する希望は決して二三にして止まらざるも要するに生等は今の當局者の處置動もすれば其日暮的にして確乎たる定見なき者の如きを最も遺憾とする者なり此際市當局者は一日も速に確乎たる市是を定め之に依りて着々其事業に着手されん事を希望して止まざる者なり。

博士田島錦治氏の論評

京都策……之れ甚だ大なる問題なり之を論せんと欲せば先づ以て市の事情を十分に調査せし上ならざる可らず然れども僕は今日迄斯の如き事に毫も注意せざりしを以て今茲に論評する能はざるも而も京都と雖も又日本の一部分ならずや國是定りて日本が發達すれば

京都も亦自から發達する京都などはドサでも善きにわらずや若し僕をして強て論せしむれば京都繁榮策にわらずして京都破壊策となるかも知れぬ。

近頃論者は動もすれば地方費の膨脹地方人民負擔の増加を唱ふるも夫れが抑も吾輩には解らぬ京都新聞の如きも奥野市次郎とか云ふ人が何か書いて居るが薩張分らぬ毫も根據のない空漠の議論だ其人の境遇が變り其世帯向きが大くなれば隨て費用の増加するのは當然なり浴衣一枚で下宿屋の二階に寝ころんで居る時代と羽織袴で紳士の交際する場合とは同一には往かぬ然るに動もすれば自分が羽織袴を着けて居る事を忘れて浴衣時代の議論をするから仕方がない社會が進歩し世の中の組織が變れば之れ迄個人でして居つた事も公共の事業としてする事となる例へば水道が出来て、ドシ、水を供給して貰へば自分で井戸を掘るにも及ばねば水汲男も入らず下女も減ずる事

が出来、下水が出来、衛生の機關が完成すれば病人も減じ、薬代も少くなつて、間接直接に人民の享くる處の利益は決して少くない。左れば此享くる處の利益と負擔する處の費用とを詳らかに調査し、差引勘定をした上にあらざれば決して負擔が増加した者とは云へぬ。決して地方費が膨脹した者とは云へぬ。然るにこれ等の事をも調査せず、唯だ徒らに地方費が膨脹した地方人民の負擔が増加したと絶叫しても、何にもならぬではないか。吾輩も斯云ふ調査が出来て居らぬ爲めに、常に社會の事を研究するのに困て居る學者や政治家が一々之を調査するのは頗る困難の事業だが、夫の代議士杯云ふ者は、徒らに叩頭をして廻つて有権者の御機嫌を取る計りが能ではないから、其序に「トス云ふ事を調査してソして議論をして貰ひ度い者だ、尤も此京都が「トス云ふ事に成つて居るか、人民の享くる利益と、人民の負擔する費用とを比較して差引勘定「トス云ふ事に成つて居るか、夫れは僕では分らぬが、四條の

積に流す爲めに造つた橋や、田舎の人にさせる爲めに設けた電燈、裝飾などの費用も、矢張市民の血を搾つた市費から支出された者だと云へば、思半に過ると云つても宜からう。此種の事は、恐らく京都繁榮策ではなくて、遊廓繁榮策、木屋町繁榮策であらう。

東京で八釜間敷騒いで居る街鐵問題の如きも、アレが公共の利益を計るが爲めに騒ぐのなら、まだ結構だが、各々自分の利益を計るが爲めに紛擾するのだから仕方がない。京都でも、此程から細木大學教授が市の囑托に應じて調査した瓦斯事業の如きも、市の事業として頗る適當の事業だが、夫れも公共の利益とはならずして、其局に當る者の利益となる位なら、寧ろ初より遣らぬ方が宜しい。全体之れ迄、日本の學者、日本の政治家は、個人の権利と云ふ事に就ては、大に注意して居るに係らず、社會公共の権利と云ふ事に成ると少しも分つて居らぬ。社會と云ふ事は、毫も研究が出来て居らぬ。東京の街鐵問題の如きも、若し其事業を起す

の初めに當りて政府の人に少しく社會の權利と云ふ觀念があつたならば決して今回の様な紛議は起らぬのだ若し直接市の事業政府の事業とせずとも將來之に對して十分の監督をする事が出来る丈の餘裕は附けてなければならぬ筈だ京都でも將來瓦斯事業でも起すならば豫じめ茲に注意して貰ひ度いものだ。

これは市の事業にあらざるも、中學校高等女學校等の生徒授業料を管の内外に依りて非常の等差を附せしが如き尤も謂れなき事なり、此事に就ては曾て山城八郡教育會でも演説をした事があつたが、教育は尙は道路の如し其地方の租税を負擔して居らぬ他地方人だからとて一道路通行賃を徴收すると云つたら、社會は之を何んぞ評するか、然るに京都の人は之を當然の事として居るから呆されるではないか、幾多の學生が此地に集つて來るのは決して謂れなく來るにあらすして其多くは或は舊師を慕ひ或は親族舊故を頼りて來る者なり而して其舊

師其親族舊故は市に對しては相當の租税をも負擔すれば相當市の爲めに盡して居る者も少くない、然るに之に對して尙は高い授業料を徴收するなと、は随分譯の解らぬ談にあらすや、況んや生徒の授業料なる者が學校經濟の上に於て幾千の補になるか、況んや他地方人から割増した其金額が、Dレ程なるか、蓋し頗る僅少の者なる可し、然るに京都人は其僅少の收入を得るが爲めに他地方人の感情を害し識者の嗤を招くも顧みないと云ふのは吾々の解する能はざる處なり、他地方人に見せる爲めに巨額の公費を投じて四條礮に電燈裝飾を造る市民の處置としては餘り矛盾では無いか、お茶屋でお上りのお客だからと云つて藝妓の線香を二本か三本附け増すと云ふのなら、未だしもだが教育の事に迄お茶屋根性を起しては仕方がないではないか、斯の如きは京都繁榮策と云ふ点より見るも亦決して得策にあらざる可し。

夫から僕は又斯云ふ事を考へて居る、政府は一定の年限に達しない者

は娼妓となる能はずとの法律を設けながら舞妓なる者を認めて居るのが抑も解らぬ彼等は何れも皆學齡兒童で國民教育を受けなければならぬ義務のある者だ今日の有様では彼等には到底完全の教育を受ける事は出来ぬ彼等將來は實に憫む可き者である然るに政府も社會も捨てゝ之を顧みないのは實に殘酷だ斯の如き事は斷然法律を以て禁止するが宜しい尙ほ僕は所謂祇園女紅場なる者が如何なる組織で如何なる事をして居るかば知らざるも幸にして教育を目的とする財團法人となつて居れば之を利用して完全なる教育機關とし大に藝妓の教育を奨励したならば善からうと思ふ全体西洋の進歩した國では一人の乳母一人の保姆を雇ふのでも決して日本の如く誰れでも善いから口入屋から引張つて來ると云ふ譯には往かぬ乳母でも保姆でも夫れ一資格が有つて少くも普通の教育は有つて一通りの衛生法や一通りの育兒法を知つて居る者でなければ出来ぬ何れも其免狀

を持つて居らねばならぬ左れば此京都でも苟も藝妓に成るには普通の教育は勿論之を京都市的に云へば琴三味線舞生花少しハイカラ的に云へばピアノオルガン等何か一の技藝を有する者更に完全の事を云へば一の音樂學校位は卒業した者でなければならぬ事としたならば善からうと思ふ之れは獨り京都のみではないが今の藝妓なる者は藝妓にあらずして酌婦なり左れば全然之を區別して藝妓は藝を演ずる者酌婦は酌をする者とし藝妓なる者はオット高尚なる者とし新聞の雜報にても今日何々の會ではドコ一の藝妓何々嬢が何々の藝を演じた其技藝はドコであつたと批評をする位の者としたならば善からうと思ふ夫れに就ては第一藝妓の資格を定め其教育を奨励せねばいかぬ尤も今日では遊廓などに入出入するお客の品位が低くお客の趣味が下劣だから藝妓に獨り高尚に成れと云ふのは無理な注文だが今の藝妓なる者の無學文盲今の藝妓なる者の野卑賤劣なるには實に驚く

計りだ、此程も池邊義象氏が或藝妓の扇に和歌を書いてやつた夫れは悉く假名文字であつた處が多數の藝妓中に其歌の讀める者が一人もなく、更に之を或お客に示した處がお客も之を讀み誤つてソクしてフソこんな者は頭から歌になつて居らぬと評した然るに此お客と云ふのは京都でも一寸有名な紳士と云ふから驚くではないか、兎に角此藝妓なる者を利用して交際の機關にでも仕様と云ふのなら大に之を改良せねばいかぬ、僕は敢て之を以て京都繁榮策とも云はねば、社會改良策とも認めねど、京都の有力者が廓の紛め事なら乃公が仲裁をして遣ると言つて居る位なら寧ろ今一步を進めて公の仕事として此位のを斷行するが善いと官のみだ。

第三高等
學校長 折田彦市氏の遊廓移轉論

京都は由來保守の地、京都の人は進取の氣象に乏し、左れば此地の發達を計り、此土地の繁榮を將來に期する所以の計を定めんと欲せば、社會先覺の人士に於て斷然たる決心を以て之を率ゐるの覺悟なかる可らず、先進の士が一時の毀譽褒貶に左右せられ躊躇逡巡するが如き事にては百年河清を待つと一般なり、而して現時の京都は實業界に政界に將又其他の各方面に於ても相當の道理を解し相當の智識經驗を有する人は決して其人に乏しからず、況や社會萬般の事は必ずしも深遠なる學理を研究せし人を要せざるも唯現時の京都に勇往邁進一身を犠牲に供しても必ず其所信を斷行せんとするが如き氣概を有する人の乏しきは余輩の深く遺憾とする所なり、凡そ何か事業を起さんとすれば多少の反對あり、多少の障害あるは免れ得可らざる事なり、況んや京都の如き保守の地に於て一大事業を起さんと欲せば幾多の故障を見るは又云ふ迄もあらざるなり、現に北垣男が疏水工事を起すに當りて

當時の市民は非常に反對し種々なる妨害運動を試みしのみならず、
 大阪及び滋賀等の人民も亦之に聲援し一時は殆んど人をして其成功
 を疑はしめしめし而も堅忍不拔なる男の決心は毫も之が爲めに動かさ
 れず遂に今日の成功を見るに至りては市民又一人の男を徳とせざる
 なく、疏水の畔に於ける男の銅像は長へに市民に仰がれつゝあるにあ
 らずや人間必ずしも功名を貪るに及ばざるも苟も先覺の士にして一
 大事業を起し社會に貢獻せんと欲せば此決心なかる可らざるなり余
 輩は今の京都に智識經驗に富める人物に乏しきを憂へざるも唯だ此
 氣概を有する人物の缺乏せるを慨嘆するものなり京都の紳士京都の
 有志者なる者は動もすればアヤフヤにして唯だ頼り無き人々たるを
 遺憾とする者なり、京都市人の特性夫れ斯の如し左れば京都市今日の
 急務は努めて柔弱の弊風を一掃し淫靡の弊を矯正し剛健の氣風を養
 成するにあり頃日の貴社新聞にも論せられし如く人間はドウしても

文質に勝てば情弱となり優柔不斷となる、京都市今日の計は寧ろ多少
 粗野に流るゝも豪毅剛健の氣風を養成せざる可らず、
 而して其手段は之を教育の力に俟つは勿論必要の事なり然れども此
 種の事は直に効果を見る能はざるのみならず家庭と周囲の空氣と相
 俟つて改善するにあらざれば教育も其目的を達する能はざるは又云
 ふ迄もあらざれば京都に於ける淫靡の風習を矯正し京都の社會を改
 造せんと欲せば先づ以て遊廓移轉より斷行せざる可らずとは余輩の
 素論なり而して此事たるや決して行ひ得可らざるの空論にあらざる
 事も亦余の信じて疑はざる處なり尤も之を一時に斷行せんと欲せば
 畜だに巨額の費用を要するのみならず營業者も亦既得の權利を侵害
 せられ非常の迷惑を蒙る事を免れざるも先づ以て其計畫を定め數年
 の後を期して徐々に實行せんと欲せば市に於ても敢て一時に巨額の
 費用を要せざるのみならず營業者も又敢て甚だしき困難あらざる可

し其方法に至りては昨年府會に於て堀五郎兵衛氏の建議案として提出せし先づ以て指定地を定め不均一の賦金を課し一定の年限内に漸次に移轉せしむるが如き頗る穩當の議論にして尤も行はれ易き説なる可し貸座敷營業者なる者は頗る代り易き者なり營業の家屋屋號等は決して變せざるも營業主は時々交代する者なりとは内貫市長の如きも曾て語り居られし事あり其交代毎に之を禁止するが如きも又一策たる可し。

論者は動もすれば遊廓を移轉すれば音だに營業者の困難するのみならず遊廓附近の人民も又之が爲め一大影響を蒙り直ちに産業を失ふ者さへ少なからざる可し即ち遊廓の移轉は音に營業者の利害休戚に止まらずして延びて一市の繁榮に關係する者なれば容易に斷行し得可らずと主張するも之れ姑息の甚だしき者にして毫も顧慮するに及ばざるなり如何となれば京都市に於ける今日の遊廓は何れも皆樞要

の地區を占領し居ればよし營業者を他に移轉し之に代るに他の營業者を以てするも決して前日に譲らざるの繁榮を保ち得るは明かなり、若し夫れ遊廓のお蔭を蒙らざれば其營業を維持する能はず遊廓移轉せば直ちに産業を失ふ者の如きに至つては遊廓と共に他に移轉するも敢て差支わらざる可し論者は又遊廓を移轉するも曖昧なる營業者の直ちに之に伴ふて起るは明かなれば寧ろ初より遊廓を移轉せざるに如かずと主張するも之れ又余輩の解する能はざる處なり余輩と雖も今日の日々に於て斷然遊廓を禁止する事能はざるを知る如く社會淫靡の風習も決して容易に廓清し得可らざる者たる事を認め居れり然れども之れ等の惡習弊慣を取締るには又別に其途あり況んや公然の遊廓として賤業者の白晝公然大道を活歩し日夜絃歌の聲絶る時なきも之を制止する能はざると法律の影に隠れて窺に醜業を營むと其社會風教を害し人心を淫靡遊惰に陥らしむる上に於て如何に差あ

るやは何人とも雖ども認むる處なるに於てをや、要するに余輩の主張は市内樞要の地區にして内外の貴顯紳士も往來し、青年子弟も學生も常に交通し、親子兄弟も手を携へて共に通行せざる可らざるが如き場所に公然醜業者を棲息せしむるは社會風教を害するの甚だしき者なれば之を一定の場所に移轉せしめ、一は以て社會風教の改善に資し、一は以て彼れ等を取締るの上にて一層便宜ならしめんと云ふに外ならざるなり、余輩は京都市の先輩諸氏が斷然たる決心を以て一日も速かに決行されん事を希望して已まざる者なり。

京都市人淫靡遊惰の弊風を矯正し、京都市人に豪毅剛健の氣風を養成し、以て市の繁榮を將來に期せんと欲せば、先づ以て遊廓移轉より斷行せざる可らざるも、之と同時に市としての体面を維持し、市として當然經營せざる可らざる事業は着々進捗せざる可らず、下水工事の如き道路擴張の如き、更に昨今の問題たる瓦斯事業の如き、何れも皆緊急必要

の事業にあらざるなし、若し一面市費經濟の上にて之を一時に起す能はざれば當局者は宜しく一定の方針に依り、事前の前後緩急を計り、徐に着手せば、苟も四十萬の人口を有し、三都の一として數へらるゝ本市必すしも成し得可らざるにあらず、要は唯だ當局者の決心如何にありのみなり、世人は又京都を以て將來の工業地となすは到底不可能の事なりと主張するも、余輩の見る處を以てすれば、成程近き大阪に一步を譲らざるの一大工業地となすは困難ならん、然れども一面に於て石炭及び原料供給の不便利あれば、一面には夫の水力電氣事業の如き、將來決して望みなきにあらず、職工其他労働者等は之を大阪に比すれば却て便益なる點なきにあらず、或程度迄工業を發達せしむる決して困難の事業にあらざる可し、工業は絶對的望みなき者とし、直ちに輕佻浮薄なる客取主義のみに傾注するが如きは、余輩の採らざる處なり。

博士中澤岩太氏の談論

京都策………之を論せんと欲せば先づ以て解決せざる可らざるは市人の所謂京都策とは今日の京都人のみにて此土地を維持せんと云ふにある歟、將又今日の京都人はドウなるとも夫れ等の事に頓着せず唯だ其土地の繁榮を期し其土地の發達を計れば夫にて善しと云ふに在る歟、若し其目的後者ならしめば其手段方法は決して妙なからざるなり、然れども其目的若し前者ならしめば今暫らくは自然の成行に放任するの外なし、市人が自から其營業を維持する能はず、初めて目を醒す迄放任し置くの外なし、唯だ徒らに千年の帝都なり、日本の勝地なりと自負して他を知らざる今日の京都市人は容易に利益を以て導き道理を以て論ず可らざるも、自然の趨勢京都の商工業者が愈々社會の競争に堪る能はず、日本の最大機業地、日本織物の本場と誇稱しつゝある西

陣の機業も全く其勢力を桐生足利其他の新機業地に奪はれ、日本宗教界の中心と自負しつゝあるも佛骨は名古屋に奪はれ、大谷派本願寺も或は遂に東京淺草に移轉すと云ふが如く其勢力は漸く他に轉じ、東洋の樂園なり世界の公園なりと自稱しつゝあるも交通の便追々開くると同時に種々なる裝飾を加へ種々なる設計を施せば京都にも勝る勝地は追々他に於ても見るを得、世人の又京都を顧みざるの場合に至れば市人も初めて目を醒し初めて奮起するに至る可し、茲に於てか初めて京都人と共に京都繁榮策を講究し京都策を論ずるを得可きも、先づ夫れ迄は到底京都人と共に京都を論ずる能はざるなり。而して今日の京都市人の觀念は其目的全く前者に在りて、兎に角京都人にて出来る丈け遣つて行くの外なし、他人混せず、手一杯に遣つて行けば夫にて足れりとするに在るは、之を今日の事實に徴して明なり、現に近く大阪に於ては市會、府會、其他公私の各團體何れも皆幾多の他

地方人を見ざるなく市長の鶴原定吉氏又御雇人なり而して此人々の勢力は寧ろ土着人を凌ぎ居るにわらずや之に反して京都に於ける此種の各團體に於て土着人以外の人種果して幾干かある他地方人にして果して勢力を有する者あるか更に實業界を見るも大阪にては商業會議所を代表する土居會頭も移住人にして會員内にて多少の勢力ある者も又多くは皆他地方人なり其他故磯野小右衛門藤田傳三郎松本重太郎中橋徳五郎などを云へる人々は何れも皆他地方人にして尤も舊家の開へある住友鴻池二家の如きすら晩近續々學識經驗ある新人士を歓迎し凡ての實權は殆んど他地方人に於て左右せられ居れり之に反し京都の實業界に於ては他地方人果して幾干かある晩近風潮稍々一變して銀行會社其他の商店等にて時に或は學識經驗ある他地方人を使用しつゝある者なきにわらざるも而も其主權は京都人皆自から之を掌握し居れるにわらずや之に依りて之を見るも今日の京都人士

は京都なる土地を愛し京都其物の發達を期し繁榮を計らんとするよりも寧ろ今日の京都人種の勢力を維持し自己の勢力を奪はれまじとの念に急なる者たる事は又蔽ふ可らざるの事實なり而して此鎖國主義は偶々却て自から其勢力を削ぎ自から滅亡の期を早めつゝある者たる事を悟らざるは其愚寧ろ憫む可きにあらずや。京都市人は皆だに隱然城壁を築きて他地方人の此地に入る者を防禦するのみならず市人も又自から進んで此城壁以外に出でんなど云ふ觀念は毫もわらざるなり晩近三十餘年間吾國社會の風潮は著しく進歩し少なくとも大小名至る處に割據して互に秦楚吳越の思をなせし封建時代の思想は全く一變して幾多の商工業者は今や漸く海外に眼を注ぎつゝあるの今日獨り京都市人は尙ほ未だ維新以前の思想を脱せず尙ほ未だ武陵桃源の舊夢を破らざる者なりと云ふも決して不可なし近く大阪に於ける實業界を見よ大阪に於ける幾多の實業家は唯だ

はしむれば、何にも殊更今茲に斯る問題を研究するの必要あらざるなり、如何となれば之を工業地となすも必らずしも旅客の跡を絶ち、觀光の目的を以て來る者を拒絶せざる可らずと云ふにあらざる如く、遊園地として之に對する諸般の設備をなせしめて、之が爲め工業は直ちに衰頽す可き譯の者にもあらざるのみならず、場合に依りて兩々相俟つて初めて其土地の繁榮を保ち其土地の發達を促しつゝあるは西洋各國にても其例決して少なからざるなり、況んや工業にも幾多の種別あり方法あり、遊園地となすにも其設備は必ずしも一二の方法手段のみに止まらざれば、決して兩立し得可らざる者たるに於てをや、若し夫れ京都に於ける幾多の工業等に對する改善策に就ては吾輩又多少の意見なきに非ざるも、未だ之を發表するの時期を認むる能はざるなり。吾輩は又折田彦市氏の唯一の京都策として主張されつゝある夫の遊園移轉論に對しては、未だ直ちに贊成する能はざる者なり、如何となれ

ば社會に遊廓あるは尙は一家に雪隠あるが如し、成程雪隠は不潔なり、然れども一日も之れなかる可らざる如く、遊廓も亦頗る必要の者なり、雪隠を成可く目立たざる如く建設するは家屋建築の上の於ける一の技術なるが如く、遊廓も又成る可く目立たざる如く巧に設置するは一の技術にして、雪隠も餘り遠方に持て行けば實際不便を感ずるのみならず、時に或は腕白小僧や不性なる下女、男は椽先きや庭の隅にても放尿するが如く、遊廓も餘り市街を離れし地に置けば却て遊廓設置の主旨に反し之に伴ふて種々なる弊害起るに至る可し、現に東京市に於て赤坂、神樂坂、新橋等、其他各區至る處として一種の魔窟あらざるなく、當局者も風紀及び衛生上の取締に就ても却て非常に困難しつゝある者、必竟吉原遊廓の餘り遠隔の地に在りて實際市民の便所たるの用をなす事少きが爲めなり、左れば遊廓は市内各所に散在するも毫も差支へざるも、唯だ成る可く目立たざる場所に置き、遊廓に入るの目的にあ

らざる以上は全く足を入るゝの必要な場所とし、遊廓内には成る可
 く他の業者を混合せしめざる事となせば夫にて足れり而して京都
 先斗町遊廓の如き尤も巧に設計せし者にして其入口は幾ヶ所なるを
 知らざるも尤も京都の地理に通ずる者にあらざれば容易に之を發見
 する能はざるにわらずや、若し今少しく完全ならしめんと欲せば更に
 上下の入口に目隠しを設け廓内に於ける其他の業者は一切他に移
 轉せしめなば申分なき遊廓たるに至る可し尤も均しく京都の遊廓に
 ても京都の支關とも云ふ可き七條より大廣間たる三條四條に出で更
 に唯一の客座敷とも云ふ可き東山に通ずる道路の両側に橋を並らべ
 つゝある繩手、四條通等の遊廓は斷然禁止せざる可らず余輩は曾て此
 事に就ては内貴市長にも語りし事ありしが、至尊の泉山御陵に參拜
 わらせらるゝにも如何に迂回せらるゝも尙は遊廓に接近せし場所を
 御道筋に充てざる可らず内外の貴顯紳士が帝室博物館を觀園山公園

に出でんとするにも尙は遊廓を通行せざる可らざるが如き事にては
 都府の体面にも關すれば宜しく速かに鶴川以東に於て南北に貫通す
 る一大道路を開くと同時に四條通兩側の遊廓をも取拂ひ而して之れ
 等の者は之を一括して三條寺裏の貧民窟邊りに移轉せしむる事とせ
 ば何にも必ずしも今日の各遊廓を悉く遠隔の地區に移轉せしむるの
 必要あらざるなり、遊廓を成る可く市内の目立たざる場所に設置せる
 は獨り先斗町に止まらずして其他の都市に於ても決して其類少なか
 らざるを見れば想ふに徳川氏時代に於ても吾輩と所見を同ふせし政
 治家ありしに依るならん。
 要するに吾輩の所見は如何に遊廓を移轉し如何に市民に豪毅剛健の
 氣風を養成せんとするも今日の如き有様にては中々容易に其目的を
 達する能はざれば寧ろ今暫らく傍觀して自然の成行に任せ京都市人
 の自から目を醒すを俟つて初めて京都策を講究するコソ却て京都の

發達を計る所以の捷路なりと信する者なり西陣機業家の如き今回の博覽會に於て比較的名譽ある褒賞を受くる者少なりしを見て自ら省みて大に奮起するが如き有様ならしめば尙ほ大に望を囑す可きも却て唯だ徒らに審査に對して苦情を唱ふるが如き事にては到底之を今日に濟度するの見込あらざるなり



博士山口銳之助氏所論

▲京都市今後の方針 を定むるに當りては中澤博士も言はれし如く何も必ずしも客取主義たるを工業地たるを論ずるの必要あらざるなり工業は工業客取主義は客取主義に各其定まる處の目的に向て進行し各其定まる處の方針に従ひて施設經營せば京都市今後之の繁榮を計り發達を期する上に於て毫も之が爲めに衝突を來し之が爲め矛盾する

るが如き事あらざるなり要は唯だ客取主義ならしめば今少しく客取主義らしくし工業主義ならば今少しく工業主義らしくするにあり。▲京都の如き不愉快の地なし 西洋各國にても客取主義の都府は決して少なからざるなり而して此都府に於ては凡ての市人が其人に接し客に對するの親切懇篤にして旅客をして知らず識らず其土地に滞在せしむる者比々皆然らざるなし佛國巴里の如き殊に其尤も巧みなる者なり之に反して京都市人は果して客に對し人に接する方法を知らる者と云ふを得可きか成程少しく上等の旅人宿等は比較的進歩して一寸客扱にも巧みなる者の如きも而も唯だ一時人の歡心を迎るに止まりて決して眞に親切にして眞に懇篤なるにあらざるなり其他の小賣商人等の傲慢無禮にして客に對するの禮を知らず信用徳義の何物たるを解せざるに至りては實に甚だしき者にして他地方人をして常に不愉快を感じ不便利を感じせしめざるなし余の知る某大學教

授の大人の如き京都は山紫水明の地なり子孫教育の地としても適當なり倅も京都大學にあればとて態々家屋迄購入して永住の計を定めしに係らず未だ數ヶ月ならずして逃げ出せり斯の如くにして尙ほ客取主義の都府と云ふを得可き乎。

▲京都商人は蜘蛛主義なり 京都商人の客に對して無禮なる一例を擧ぐれば余は此程小兒を伴ひ某商店にて或る品物を購んとせり然るに番頭は初より「内には粗末な品物はありませんが……」と云へり、何も余は粗末な品物を購はんとは云はざるなり、又此程二三の女學生は京極の一商店にて或る品物を手にしつゝ、「此處の品物は少し高い様だ」と評せしに店番をなしつゝありし女は「高い事がある者が能う買ひもせぬ癖に」とて手荒く其品物を奪ひ返し尙ほ「朝から縁喜でもない」と嘲り居りしを自撃したり、而して京都商人が其女學生に對して斯の如く無禮なるは其一方に於て賣物をなしつゝある他の

客に對しても又無禮なる所以にして自から其商店の信用を傷くる者たる事を悟らざるなり、余は又此程東京なる友人の依頼に依り寺町通りの一商店に於て短冊を購んとせしに「大概コナ物です」とて容易に其他の品物を示さず、左りとして決して其他に品物なきにわらず、追には色々の品物を持ち出し僅に五十枚の短冊を購入する爲め、遂に二時間以上を費せり、余は若し友人の依頼ならざらしめば斷然見合せんと思ひしも漸く忍んで友人に對するの義務を果せり、之れ果して客取主義を以て唯一の繁榮策となしつゝある京都商人の体面と云ふを得可き乎、佛蘭西商人などは客に對する實に鄭重にして其品物の多少、價額の高下等に依りて客の取扱を區別するなど云ふ事は毫も之れなく、五十錢一圓の品物にても一々之を其旅館迄送り届くる等注意の周到なる京都商人などの夢にだもみる能はざる處なり、余は故に曰く、京都市人の京都繁榮策は眞の客取主義にわらずして蜘蛛主義なり、網に

かゝる者あれば之を捕へて餌とするも自から進んで獲物を得んとはせざるなりと。

▲京都商人は又耻辱を知らず 京都商人は信用の重す可き事を知らざるも同時に又人間耻辱の何物たるを解せざる者あり余は此程某商店に小兒の袴を注文し品物引換に代金を支拂ひたり然るに後十數日に及んで再び代金を請求し來れり家人は其事實を告げて其不都合を詰責せしに「ハア、ソードスカ」と平然たり若し其商人が果して二重取りをなす可き積りならしめば其不埒なる又云ふ迄もあらざるなり若し又過失ならしめば大に自ら不注意の罪を謝せざる可らざるに「ハア、ソードスカ」と平然たるに至りては實に信用の重す可きを知らず又耻辱の何物たるを解せざる者なり之れ其一例に過ぎざるも其他此類決して其例に乏しからざるなり斯の如くにして果して能く今日の商業界に起つを得可きか否かは又云ふ迄もあらざるなり。

▲京都の物價は決して廉ならず 世人は又動もすれば京都の物價は之を東京邊に比すれば遙に廉なりと云ふも余の経験に依れば物價の廉なるにあらずして物價の粗悪なるなり價額は二割位廉なるも物價は五割も粗悪なれば慥に尙ほ三割の高價なり大學校舎建築の如きも之を東京に於ける同一の建物に比するも遙かに高價の者となり居れり大工一日の賃金は之を東京に比すれば稍々廉なり然れども京都の大工が一日半を費す可き仕事なれば東京の大工は一日にて仕上ぐると云ふ有様なれば總手間賃の上に於ては矢張東京の方廉なる譯なり其他多くは此類にして要するに京都の人は商人も職人も將又紳士も唯だ一時を胡魔化し一時の利益を貪り兎に角其場を過せば夫にて善しと云ふ有様に人にて對する親切なく又永遠の考もなし殊に旅客其他の他地方人に對して輕佻浮薄なり努めて此弊風を矯正するにあらざるよりは京都は客取主義の都府としても又決して成功する能は

ざるなり、
 ▲教育其物が既に輕佻浮薄なり、然らば斯る弊風は之を教育の力に依りて矯正し得可き乎、勿論困難なればとて等閑に附し置く可き事柄にあらざれば、社會先覺の士は教育其他の方法に依り努めて之を矯正するの工夫を講せざる可らざるも如何せん教育其物が既に輕佻浮薄唯だ一時の儀式的にして教育の本旨に副はざる者の如きを余は初めて京都に來りて各小學校舎の宏壯美麗なるに驚き更に各種の教育統計表を調査し就學兒童の頗る多きを見て益々此地の教育事業の進歩發達せるに驚けり、然るに何ぞ知らん其校舎の宏壯美麗なるは門と支關のみにして内部は左程にもあらず、門より支關に至る迄は御影石を以て敷き詰めあるも之は知事様にも御迎へ申す可き支關にして多數の生徒は雨天の日などは泥濘に履物を汚しつゝ其傍の不潔なる入り口より昇降せざる可らざるが如き組織となり居るを見て初めて

京都の教育は支關主義なるを悟れり、又校舎の内部も善美を盡し就學兒童も頗る多きも肝腎の校長は校舎を壯大美麗ならしむる事と就學兒童を督責する事のみを急にして教育の内容は存外不備不親切にして其生徒が如何なる者となるも教育の結果が如何になるも一に其罪を家庭教育の不完全に嫁して校長以下職員等は殆んど對岸の火災視しつゝある者すら少なからざるを聞き京都の教育も又京都的にして決して恃みとす可らざる者たるを知るに至れり。
 ▲京都の舊慣は素町人の舊慣なり、京都の發達せざるは市人の腦裏より土地自慢の觀念容易に去らざるが爲めなり、京都人は努めて古習舊慣を尊び外來の人種に迄一々之を遵奉せしめんとする者なり、古習舊慣必ずしも悉く排斥するにも及ばざる可し、況んや郷に入りて郷に従ふは一種の美德なるをや、左れば吾々移住人と雖も場合に依りては之を遵奉する事を拒む者にあらず、然れども如何せん市人の所謂古

習舊慣は尤も卑しむ可き素町人の古習舊慣にして優美なる堂上人の古習舊慣にあらざるなり、高尚なる士風にあらざるなり、今日の實業家を目して素町人など評するは不穩の言なり、實業家を侮辱する者なり、然れども士農工商と唱へて社會より尤も卑まれし當時の商人は又自からも卑みて、金錢以外には毫も國家社會など云ふ觀念あらざりしなり、隨て其社會に放ける風俗慣習も又實に卑しき者なりしなり、唯だ此間に於て京都の商人は流石に一面には折々堂上人などにも接し居りし爲め多少は高尚優美なる點もありしならん、之を地方に於ける素町人の慣習に比すれば稍々見る可き點もありしならん、然れども其當時尙社會の上位にありし武士の風俗慣習に比す可もあらざりしは又云ふ迄もあらざるなり、然るに京都市人は尙之を悟らず何人にても此舊慣に遵奉せしめんとするは抑も誤れり、況んや今日の實業家は昔の素町人にあらずして、國家社會も又漸く實業家に重を措くに至れるをや、

左れば實業家も又自から努めて素町人根性を去り、日本魂を涵養するの覺悟なかる可らず、素町人の習慣を捨て、士道を守るの覺悟なかる可らざるなり、否社會の風潮は既に漸次之に傾き居れり、然るに京都市人の尙は未だ素町人根性を脱せざるは、之れ京都の發達せざる所以なり。

▲雪隱を客座敷に應用し居るにあらざるや 折田彦市氏の遊廓移轉論も中澤博士の反對論も要するに遊廓を社會の表面より遠ざけ遊廓を隠れたる場所に置き社會の風紀を維持し社會の弊風を矯正せんとするに外ならずして歸着する處は同一論旨なり、中澤博士の云ふ如く遊廓は社會の雪隱にして必要もあるならん、然れども今日の日本殊に京都の如きは此雪隱を以て庭園の裝飾となし、客座敷にも應用し居るにあらずや、京都の紳士は少しく鄭重にせざる可らざる來客あれば直ちに之を雪隱に招待して得々たるにあらざるや、京都の紳士は雪隱に出

入するを以て得意となしつゝあるにわらずや左れば此際其構造を改め雪隠は雪隠らしき者とし少くも雪隠は不潔の場所なり雪隠は臭き者なりとの事を知らしむるは刻下の急務なり中澤博士は遊廓を遠隔の地に移轉すれば随て曖昧なる營業者現るゝとて杞憂せらるゝ者の如きも之を取締るには別に其途あれば敢て深く憂るに足らざるなり、
 ▲遊廓の女子に及ぼす感化 遊廓の社會の表面に現存するが爲めに青年子弟を誤り學生を墮落せしむる等の弊害は勿論決して尠少にわらざるなり此一事にても遊廓は儘に移轉せしめざる可らざるなり、然れども余は遊廓の男子を墮落せしむる弊害よりも女子に及ぼす感化の爲め社會を紊亂するの弊害は更に大なる者たる事を信じて疑はざる者なり身体を裝飾し美を飾る事を悦ぶは女子の天性なり然るに今日の日本には未だ西洋各國の如く女子の互に其美を飾る事を比較研究す可き機會少し西洋にては夜會なる者は上流社會の子女が互

に其美を競ひ其裝飾の巧妙なるを誇る一の機關となり居れる爲め決して賤業者の裝飾に倣ふなど云ふ弊害あらざるも日本の女子社會にては未だ此種の機關なし而して藝妓なる者は或は多少野卑なる點あるならんも其美を飾る上に於て兎に角尤も發達せし者なり殊に京阪地方の如き童だに遊廓の社會の表面に顯れ居るのみならず藝妓なる者は有外社會に勢力を占め居る爲め動もすれば其美を飾るに標準とする者なきに苦みつゝある多數の子女は識らずに之に倣ふに至れり童だに其美を飾る事に倣ふのみならしめば敢て甚だしき弊害はあらざるも之と同時に其精神慣習も次第に墮落し次第に之に近くば免る可らざるの數なり現に東京にては尙ほ未だ貴婦人と藝妓とは一見して區別し得可きも上方にては殆んど之を區別し得可らざるは何人も認むる處にわらずや西洋各國にては醜業婦の裝飾に類するなきかとは貴婦人社會に於て尤も苦心する處なるも京都などにては「藝妓

△△△の△△△「△△△」とは女子に對する無上の讚詞となり居れるに、あらずや、家庭の教育、性格の養成は過半女子の力に依らざる可らざる事たる事を知らば、之れ尤も愛ふ可き現象にあらざるや。

▲余の遊廓取締法私見 左れば遊廓はドウしても嚴重なる取締をなさいる可らずとは余の素論なり、而して其事たるや區々たる行政官の手心にては到底行はれ得べき事柄にあらざれば、斷然法律に據るに如かざるなり、余は法律家ならざれば深く法理を解せざるも、何にも其人に對して檢束を加へんとするにわらずして其業務に制裁を加へ取締法を設けんとするに外ならざれば、彼れ是れ人權など論ずる事はあるまじと信ず、況んや今日は法律を以て、年少者の煙草を禁ずるの場、社會風教を維持する爲め、賤業者の取締法を設ける、決して怪むに足らざるべきをや、而して余の意見の要は。

一、幾萬の人口を有する都府は何ヶ處の遊廓を設くる事を得、幾萬に

充たざる市街は何ヶ所以上の遊廓を設くる事を得ず、市街なき郡は何ヶ處となす等夫れ、法律を以て標準を定る事。

二、遊廓の構造は周圍に區劃を設け出入口は一ヶ處とし遊客以外の者は一切出入する必要なき場所となす事。

三、遊廓は市街を離るゝ何町、神社、佛閣、公園、學校、公衙、其他多數の人々の集合する場所に接近せしめざる事。

四、藝娼妓の廓外を出入するには一々取締者の許可を受け、其服裝に就ても夫々制裁を設くる事。

五、娼妓の外出する場合には、瀌車、瀌船、其他の高等交通機關には上等に乗る事を禁ずる事。

六、藝娼妓は一切廣告的の事をなす可らざる事、夫の神社、佛閣等に奉納する灯籠、手拭、其他芝居寄席等に寄附する暖簾、幕等にも藝名を記す事を禁ずる事。

七、或區域の場所は如何なる場合にても一切通行を禁ずる事。
 等の規定を設け嚴重なる制裁を加へ、一は以て彼れ等の社會に跳梁跋扈するを防ぎ、一は以て社會をして藝娼妓なる者は尤も卑しむべき者にして尋常人の齒す可き者にあらざる事を知らしむるは實に今日の急務にして京都の如き殊に其必要を感じつゝある者たる事を信じて疑はず。

▲意氣地なき市民 從順は人に於て一の美德なり然れども其間一片の意氣あざらしめば其人は到底社會に頭を上ぐる能はざるのとなり、京都市人の從順は其度を越えて擧る意氣地なき者必竟徳川氏時代常に江戸政府より非常の干渉を受け非常の壓制を受け習性と成りしに依る者ならん而して今日京都市の發達せざる者其の大原因は全く茲に存すと云ふも不可なし京都市人の特性は伊太利人に似たる点あり、伊太利も古き國にして國人は己國自慢の觀念を去らずして其國の

割合に發達せざる處頗る吾京都と相似たり然れども伊太利人は其間又多少の意氣もあれば存外快活なる點もあれど京都市人に見る處の者は唯だ褊狹猜疑の念のみなる者の如きは京都市人の爲めに惜む所以なり今試みに市民が意氣地なきの一例を擧ぐれば京都電氣鐵道の如く設備不完全にして御客を動物扱し加之に法外の賃金を含る市街鐵道は其類例少なかる可し而して其會社は社會に對し又お客に對して如何なる態度を採り居れるかと云へば過日貴社の新聞にも記されし如く高木同會社長は「若し會社が無暗に賃金を高くすればお客は自然に減するツマリ會社の損失滅亡に歸する迄なれば社會が彼是れ隊を容るゝの必要なし若し市が報償を出せなむ分らぬ事を云へば之れ迄寄附した金を一時に還して貰ふなど放言しつゝあるに係らず市民は又一人の之を怪む者もなければ咎むる者もなきにわらずや若し多少意氣地ある市民ならしめば斯の如き事を放言せしめ決して聞き棄

にはせざる可し、電鐵會社の不完全なる事等に就ては勿論、遞信省も府廳も又市役所も幾分か責任あるならんも、要するに市民にして今少しく社會の權利の何たるを解し、今少しく意氣地、わらわらめば大に之に改善を加へしむる位の事は朝飯前の仕事なり、之れ其一例に過ぎざるも要するに多數の市民も市の當局者も今少しく意氣地あり、今少しく勇敢果斷の氣象あるにあらざれば、何事もなす能はざる可し。

▲最後の一策 然れども中澤博士の言ふ如く之を今日の京都市人に需むるは寧ろ無理なる注文なり、今日の京都市人が自から其勢力を維持し以て此地の繁榮を計り發達を期せんとするも到底望み得可らざるの事なり、左れば若し眞に此土地の發達を期せんとならば、之を英國人か米國人にでも譲り渡さば、夫れコン二三年の間に東京大阪をも凌ぐ可き大都府たるに至る可し、而かも是れ言ふべくして行はるべき議論に非ざれば最後の一策として先づ以て大に門戸を開き他地方人

を歓迎すると同時に市人も又ドシ／＼他地方に出稼ぎ其の見聞を博くす可し、少くも一人前の男子にして海を見ずして死するなど云ふ人は一人も無からしむる位の覺悟なかる可らず、市人が自から其勢力を維持しつゝ其發達を期せんとするが如きは是れ到底見込なき事なり。

工學士井上秀二氏の道路談

工學士井上秀二氏は目下職に京都市技師に在り、自から曰く余輩今日の位置として京都市前途の企畫經營に關し、唯だ徒らに無責任の首辭を弄するを許さず、然れども市街の交通機關と云へる事柄に關して職として多少調査研究する處ありたり、殊に本市の道路に關しては一個の抱負を有し目下尙ほ調査中に屬すれば期を見て之を發表する事ある可し、云々と想ふに氏の記者に語る處即ち其一斑なる可し、又以て氏の意見は尋常一様局外者の批評的言論と多少趣を異にする者あるを知らざる可らず、諸君幸に之を諒せよ。

▲道路の擴張は京都市目下の急務なり 京都市の發達を計り京都市

の繁榮を將來に期せんと欲せば目下既に市の問題となれる下水道の
 布設も勿論必要な可く、上水道の布設も又必要な可く、商工業の保
 護獎勵も教育の普及も遊廓の移轉も將又公園の設置も緊急必要の問
 題たるに相違なし、然れども之れ等の事を論ずるには別に其人あり余
 輩の敢て容喙す可き事柄にあらざるも余輩の見る處を以てすれば、之
 れ等の事業を起すに就ても先づ以て直ちに計畫せざる可らざる者は
 道路の擴張なり而して余輩の道路擴張を主張する所以の者、東京市も
 市區改正を行へり、故に京都市も道路を擴張せざる可らず、名古屋の道
 路も存外立派なり、故に京都市も一日も速かに其工を起さざる可らず、
 都府の体面よりしても、道路の擴張は尤も必要なりなを云へる皮相的
 の觀察にわらずして、實際都府の繁榮を計り、發達を期せんと欲せば先
 づ以て根本的に交通機關より改善せざる可らざる者たる事を確信し
 て疑はざるが爲めなり。

▲都市道路目的の變遷 然らば何故に道路の擴張が而かも都市繁榮

の上にて於て必要の事業なるか、抑も獨り日本のみならず歐洲各國にて
 もツイ十九世紀迄は都市に於ける道路の目的は交通機關としての利
 便を計り、之に據りて其土地の繁榮を期せんとするよりも、寧ろ其國の
 帝王、其土地の領主、其土地の主權者が自己の領土を保全し、外敵の侵入
 を防禦するを以て、ヨリ大なる目的となせしは、又蔽ふ可らざるの事實
 なり、殊に吾日本の如き幾多の大小名は到る處に割據し、動もすれば互
 に併呑略するの有様なりしを以て、道路橋梁等も成る可く、要害の地に
 設け所謂一夫險に當れば萬夫も之に敵する能はずと云へるを以て、唯
 一の目的となせり、而も其當時に在りては、各其小天地内に於て需用供
 給をも充たし、各小天地内に於て生活し居りしが爲め、交通機關の便否
 に依りて其土地の繁榮に影響を及ぼすなを云ふ事は頗る稀なりしも、
 時勢の變遷と共に交通機關の便は益々開け、小帝王割據の制度も又全

く一變せしと同時に天下は又小天地内個々別々の生活を許さざる事となれり茲に於てか道路の目的も又全く一變して昔日は過半は防禦の目的なりし道路橋梁も今は需用供給の便利を計り運搬の費用を軽減し旅客を導くを以て唯一の目的とし以て其土地の繁榮を維持せざる可らざるに至れり。

▲交通機關の發達と其土地の繁榮 交通機關の發達するに伴ひて其土地の膨脹するは又云ふ迄もあらざるなり而して其膨脹には面積人口の膨脹と實力の膨脹との二種あるも面積人口の膨脹は交通機關と尤も著しき關係あるは之を事實に徴して明なり歐米各國に於ける大都府の歴史を開するも多くは皆輓近交通機關の著しく發達せしと同時に一時に膨大となりし者ならざるなし左れば京都市の如き唯だ徒らに南は西九條を市に編入し東は吉田町一帯の地を市の範圍とし北は金閣寺附近迄市部に編入す可しなと區々たる施設をなせしとて市

内の交通機關にして十分に發達せざらんか之等の端し一迄眞に都市としての体面を維持し眞に都市としての繁昌を保たしむるに至るは容易の業にあらざるも之に反して市内の交通機關即ち市街鐵道等にして十分に發達せんか從來市内樞要の地區に在りて其業務に従事せし人々も其機關を利用して知らず一の間に之れ等の場所に移轉し其結果商店と住宅との區別も自から明なるに至り畜だに之れ等の場所も一時に發達するのみならず市内樞要の地區も又益々之を經濟的に利用する事を得可く隨て凡ての商業組織も自から文明的となり大分業制度も又自から行はれ其他衛生風教等の上に於ても裨益少なからざる可く知らず一の間に本市の發達膨脹を期するに至るは蓋し自然の趨勢なり之れ余輩が都市の發達を計らんと欲せば先づ以て交通機關の設備より完成せざる可らずと云ふ所以なり而して交通機關は抑も如何にして完成し得可き歟乞ふ余輩をして更に説く處あり

らしめよ。

▲東京市と京都市 交通機關が都市繁榮に直接の關係を有する夫れ斯の如し然るに或人は云はん東京は昔し江戸時代に於て別段市街鐵道もなかりしが尙ほ四里四方にも亘る大市街を形成せしには非ずやと夫れ然りされど其當時と今日と都市の要素に於て大なる差異あるを忘るべからず古は都市とは主權者の住居と云ふ言葉の代名詞に外ならざりしなり主權者若くは政事を司る廳署なければ都市なるもの亦なかりしなり古昔支那にては日本にては帝王の即位慶毎に都を所所に移轉せし事蹟を見ては明白なり故に江戸が大なる都市となりしは一に徳川幕府の所在なりし事と封建制の威壓を以て三百諸侯の居住を城下に定めしめたるが故商工業も其等需要に應じて漸次發達したるものにして各區各方面に屋敷町があれば商賈も其方面に店を列ねたるものなり今日尙ほ本郷と云ひ芝と云ひ牛込と云ひ至る處其方

面の中心となる可き小繁華の地あらざるはなく日常の需要供給は皆其方面に於て辨じ得べき組織となり居れり以上の如く其組織及發達形成の根本に於て政事的都市なるが故若維新の節幕府が瓦解したる儘にて遷都もなく日本政事の中心ともならぬと假定せば東京が今日の繁榮を來す事は至難の事なりしならん然るに幸ひに維新後も政事の中心たるを失はず尙附近には横濱の如き良港を開き市街鐵道を縦横に企畫し又進で東京灣築港迄もなし交通機關の完備を以て其繁榮に對する隨一の捷路と認め居るは一々事實に徴して明なり翻て京都市を見れば最早東京の如く政事的都市にあらざる故に其採る所の繁榮策にありても一國施政の方針其他政治的變遷と共に其興敗を共にせざるべからざる政事的都市を目的として萬般の經營をなすは策の得たるものに非ず然らば何を目的として策を講すべきか是れ次に解決すべき問題ならん。

▲交通機關の設備は凡て繁榮策に共通なり 東京と京都と其都市組織の上に於て根本的差異あるは既に述べたるが如し此に於て其繁榮を企圖するに當り或は商工業の發達を唯一の目的とすべしと云ふ論者もあらん或は京都市は千餘年の舊都にして其名勝古跡に富む事他に其比を見ず換言すれば一大公園なり一大遊覽地なり故に京都市の繁榮を謀る事は遊覽地たるの設備を完備せしめ内外の遊覽者を誘引するに若くはなく、商工業には現に大阪市あり商工業を以て大阪市の比肩し競争せんは策の得たるものに非ずと云ふものもあらん又或は京都市は山紫水明にして氣候温和空氣清淨にして靜穩なる土地柄故教育の中心となすに勝る策なしなど其繁榮を謀る目的に於ては種種の説も起らん更に轉じては或は遊廓移轉論となり教育制度改正論となり、商業信用興進説となり種々の有力者學者より發表せらるゝに至れり、余は爰に繁榮策の是非を論せんとするものにあらず、繁榮策の

如何なる種類を問はず只一言せんと欲するものは如何なる繁榮策を講ずるに、市の交通機關の完備と矛盾するものはない事なり、商工業發達説と遊覽設備完成論とは自から相衝突する点もあらんされ共交通機關の設備完成は何れの方針を採るにしても必要の事たるは明にして交通機關完備せざれば商工業の發達も望むべからず、又遊覽地として俯く所あらん又或論者は云はん大阪市の交通機關として市街鐵道もなく道路の幅員に於ても京都に劣るとも勝りはせず、然るに商工業の發達の著しき事全國に冠たるには非ずやと、此れ一應尤もなり然れ共大阪には市井を縦横に貫通せる幾十の運河あるを忘るべからず、諸種の工業に對し死活の權を握り居るものは其生産費なり其生産費を左右するもの、最も大なるものは原料及石炭其他の運搬費なりとす此等の重量物の水運によるは陸運によるよりも低價なるは明白なる事にして、大阪市工業の發達は勿論他に位置適切其他の源

因多しと云へ共水運と云ふ交通機關の比較的完備しあるに歸せざるべからず又商業に於ても然り貨物の運送授受が運河により如何程利便を受けつゝあるかを察せざるべからず更に一方にありても大阪を發着起点となし居る鐵道を見ても停車場の位置は難波と云ひ道頓堀と云ひ湊町と云ひ比較的市の中心に存在し居るに非ずや而て市民は未だ此に甘んぜず大阪築港の大工事を起し電氣鐵道を敷設し水となく陸となく其交通機關の完成に盡瘁しつゝあるを見ては商工業の發達と交通機關とは至大の關係を有する事を知るに餘あらん然らば我々京都市の交通機關の現状は如何

▲交通機關の種類 京都市の交通機關の狀態を論ずるに先ち一言せざるべからざるは交通機關の種類なり交通に二様あり一は言語音信の交通にして其媒介をなすものは飛脚郵便電信電話なり而して最も進歩したるものを電信電話となす一は人馬貨物の交通運輸にして水

運にありては天然の河海港灣は勿論人造運河に依り陸運にありては一に道路による而して交通運搬の方法及其頻繁の度如何により道路も之に對する相當の設備を要するは當然なり人馬の步行往來も道路による駕籠の往來も道路による人力車馬車の往來も道路による市街鐵道も道路を利用す人馬が歩行のみする時代の道路と人車馬車の標走する時代と同様の道路にて可なりと云はゞ世人其愚を笑はん更に進で人車馬車の往來する道路に其儘市街鐵道を敷設するは果して當を得たるものなるや説明を要せずして明ならん況や市街鐵道の如き新規の利器を應用する時は益々人馬車輛の往來を頻繁ならしむるに於てをや京都市道路の現状は果して諸種の交通運搬の進歩發達と伴ひつゝあるや京都市の繁榮膨脹に都合よく出來て居るや土地繁榮に俟くべからざる市街鐵道は既に敷設しあり而して果して其効を奏しつゝあるや乞ふ少しく是等を觀察せしめよ。

▲京都市の道路 偕て京都市の交通設備を見るに水運にありては大阪の如く港灣を有せず只僅かに疏水運河と高瀬川を有するのみ而かも是れ共に貨物の運輸に止れり故に京都市内の交通は専ら道路によると稱して殆んど差支なし然るに其唯一の交通脈たる道路を見るに遺憾ながら輓近交通運搬方法と相並行せざるなり而して其最も甚しきは往來頻繁の度に比し幅員狹隘にして主要なる街路に完全なる市街鐵道を敷設するの餘地なき事是れなり夫れ一定の幅員を有する街路を區劃し人道車道の別を明にするときは其區別なき時に比し往來繁錯の弊を幾分減ずるを得べしと雖之れ全体に於て五間以上の幅員を有するものにあらざれば實行するを得ず而して今日京都市内の道路を見れば其総延長六十里に餘るも五間以上の幅員を有するもの果して幾何かある更に今日運轉しつゝある電氣鐵道につきて一言せん。

▲京都市の電氣鐵道 元來市街鐵道は如何なる任務を有するものなるか若し其任務を全ふせざれば市街鐵道としては有名無實に終らんとす市街鐵道は實に左の如き種々の任務を有す。

- 一、都市に於ける中心と中心とを連絡する事
 - 二、遊覽場に達する事
 - 三、停車場に於ける乗降客の運輸
 - 四、都市事業中心と居住地方とを連絡する事
 - 五、速度大にして時間を徒費せざる事
 - 六、乗客は何時にても之を利用し得べき事
- 今運轉しつゝある電氣鐵道は果して以上の任務を全ふしつゝあるや否や其の線路の一端は北野にあり東南に迂回して木屋町を南行せるは即ち京都市の中心たる三條四條寺町附近と西陣地方を連絡するものなるが故第一の任務を遂行し居るものと云ふ事を得ん又一方北野に達し一支線は二條より分岐して粟田岡崎に到るものは第二の任務

たる遊覽地に達するの便を謀るものなり而して客車の發着點を七條
 停車場及二條停車場に置く所以のものは第三の任務を全ふせんが爲
 なるべし進で第四の任務に對しては如何と云はれ此任務を専ら帯び
 居る線路は出町線のみ即ち御所以北塔の段附近及下鴨地方の居住地
 に對しては不充分ながらも確かに便益を與へつゝあり以上略述せる
 所を以て見れば線路の撰定の點に於ては現在京都市の状況より見ば
 當を得たるものと稱するを得ん此上尙は西洞院線の運轉を開始する
 の曉には尙は一層其便益を増加するは疑なし然れども第五第六の任
 務は如何と云はれ死を其任務を全ふし居らずと云ふも過言にあらざ
 るべし現在の電車に乗るは勞力の經濟にこそなれ時間の經濟にはな
 らぬなり又何時にても必ず電車に乗り得べからざるなり第一より第
 四迄の任務條件は線路の撰定の良否如何に依て如何様にもなるも第
 五第六の任務條件は専ら其設備如何に關係する者なるべし其設備を

完成せんには種々の事をなさざる可らず精巧なる機械を使用するも
 効あらん客車の數を増加するもよからん運轉時間を延長するも宜か
 らん然れ共最も其効を奏せんとせば單線を改めて復線となすに若く
 はなし電鐵會社も既に此第五第六の任務に對する設備の必要を認め
 近年客車を増加し又は離合地を増設して専ら時間の空費を避けんと
 し非常の熱心を以て經營しつゝあるは世人の認むる所ならん然れ共
 如何せん單線組織にありては得る處は費す所に比例せざるなり若し
 幸に復線となす事を得ば世人の受くる利益は頗る多大となす交通機
 關としては倍す其効を發顯するを得べし然るに目下京都市の道路は
 狹隘にして復線を敷くの餘地なきを如何せん現今の儘に放置せんか
 所謂佛造りて魂入れずの歎なき能はず電鐵が今日豫想の如き効果を
 奏せざる所以のものは會社の罪にもあらず撰線の悪しきにもあらず
 全く道路の狭きに起因すと云ふも不可なきなり。

▲道路を利用するもの増加以上述べたる處丈にても道路擴張の必要あるは明なり然れ共尙ほ其必要を促すものは道路を利用するもの増加したる事是れなり電信電話線及其他の電線の如きは輓近の趨勢は地下線となす方に向ひ居れり是は保存上にも又街路の体裁上にも可然筈にて架空式なれば尙其上に電柱の爲め街路幅員の効用の幾分を殺ぐは既に世人の熟知せる處にして殊に京都市の如き狭き道路の兩側に電話柱もあり電信柱もあり電燈柱もあると云ふが如き有様にては尙更究屈を感ずるなり此等は地下線になすとも矢張道路を利用するものなり上水管も瓦斯管も道路に埋設せざるべからず加之下水溝も新に京都市の設計の如く雨水汚水分離式なるときは二通り地下に造らざるべからず歐米の大都にて幅員廣き所に於ても尙ほ地下諸線の繁錯に困難を感じ來り近來は此等の諸線諸管を總て包容する一大地下道を造る傾向さへ生ずるに至れり目下京都市に唯だ電話地

下線一個をつくるにも尙ほ殆ど街路全面に發掘せざるべからざる有様なれば斯の如き地下道をつくる事は尙更至難の事と云はざるべからず若し地下道によらずして諸線各管を個々別々に埋設すると假定せよ其種類は少くとも五六種に上らん今假りに一種につきても四四尺を要すとしても六種ならば二十四尺即ち四間を要すべし悲哉現今京都市の重要道路にして巾四間を有するものは甚だ鮮し今一步を譲り諸種の線管を埋設し得たりとせよ其工事も餘程困難なるべく其等の修繕取付其他の爲め路面を發掘する必要は地下に存在せる線管の種類が多き程度敷も重なり爲めに往來を妨害する事甚しく人車道の區別ある歐米都市に於てさへ其不便をかこち居る次第なれば況や其區別なく且つ幅員不充分にして其發掘の度毎に其障礙が幅員の全部に亘るが如き我京都市の道路に於ては其不便果して如何ぞや今日より尙ほ豫想するに難からざるべし此弊を避けんとせば道路を擴張し

人車道の區別をなし其準備をなすは決して大早計に非ずと信するものなり。

▲道路擴張の必要なる他の理由 以上述べたる外道路擴張の必要なる理由を云はば尙一二にして止らざるべきも京都市の現在道路面積を他の都市に比較しても亦其必要を認むべし即ち歐米の大都市にありては道路面積は全面積の二割以上に出づ東京市は市區改正道路擴張を終りて尙一割五分に過ぎず然るに京都市にありては目下一割に達せざるなり抑も道路面積は都市全面積の割合は都市が發達すればする程重要視せざるべからざる事項なり如何となれば都市費幼稚の時代にありては地價も低廉なるが故庭園空地も割合に多く又家屋も平家ならざれば二階建位に止り空氣の流通もよく光線を遮断する事も少きが故衛生上左程注意を要する事も多からざれ共一朝都市繁榮の運に向ふに當りては人家楹比稠密を極め空地庭園の面積は家屋の

占領する處となり遂に地價の騰貴を來し更に進んでは平家は二階となり二階は三階となり遂には數十層を有する家屋の並列を見るに至るは歐米各國の實例に徴して明白なり此曉に於ては道路は單に人馬車輛の往來の用に供するのみに非るなり單に電線其他諸管の通路たるのみに止らざるなり實に沿道人家に向て空氣の流通路ともなり光線を供給する一大窓戸ともなるは理の當然にして歐洲の諸都に於けるが如く「街路の幅員は沿道人家の高さより小なるべからず」と云ふが如き條例を設くるの必要を感ずるに至るべし今京都市の現状を見るに家屋の高さの点にありては本邦の諸市に比しても尙低きが如しと雖人家稠密の度に於ては可なり大なりと云はざるを得ず故に今後の發達の趨勢は先づ家屋の高さの増加に向ふものと豫想するを得べく近來中京附近に於て益々其趨勢の速なるを認む今日は高く聳ゆる建物は尙は未だ所々に点々たる有様なるに拘はらず其に隣接せる

人家又は其後陰に介在せる道路等の兎角濕潤にして不衛生の感あるは事實認むる處に非ずや今試に他日京都市が今日に數倍せる繁榮の域に達し高層なる建物相接し相對して軒を並べ而して其間に介在する道路の幅員は現今の儘たる有様を思考せよ空氣疏通の不良と光線不完は必然の結果にして其時に及び急に衛生を云々し家屋構造の改良を唱ふるは最早遲きのみならず何等の効をも奏せざるべし其將來を想ひ百年の大計を立てんと欲せば先づ今日に於て道路を擴張し置くの勝れるに若くはなし人若し之れを以て大早計の甚しきものにしてかゝる心算なしと云ふものあらば余輩は言はん是れ京都市の繁榮を豫想せざるものなり否な繁榮を欲せざるものなりと。

▲道路擴張事業は既に他に先例あり 京都市に於ける道路擴張の必要なる理由は斯の如し然りと雖も此事業たる素より莫大なる費用を要するを以て其實行を期せんと欲せば大なる決斷と覺悟なかるべか

らず論者は又云はん道路擴張は實に理あり又美事なり然れ共歐米諸都市は古昔より道路の幅員廣く又人道車道の區別あり故に今日に及んでも幸に大なる不都合を感せず反之本邦の都市道路は既に其創造に於て彼と異なり今日は最早市街も固定の形成をなせるが故に新市街を開くに當りては充分其幅員も思ふ様になし得んも徒らに泰西の例を引き既に出來上り居る市街や道路迄の改正せんとするは事理に暗きものなりと之れ理あるが如くにして其實事理に通せざるもの言なり勿論西洋とは云へ米國の諸都市にては其創建も古からざるを以て其市街を開くに當りては既に幾多の經驗を経たる歐洲の諸都市に鑑み道路も割合に幅廣く計畫せるが故に更道路擴張など騒ぐものは殆どなきのみならず「ヨーロッパ市」と云ひ「アメリカ市」と云ひ「フランス市」と云ひ「反て道路の廣過ぎたるをかこち居る程なり此の如く新開の都市に於て寧ろ廣過る程の道路を企畫するに至らしめたる

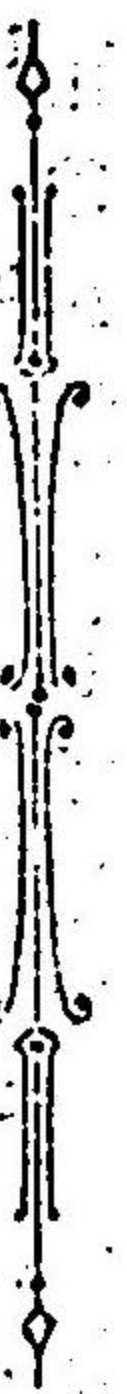
源因を推察しても道路の幅員は如何程迄都市にとりては重大なる問題たるかを知るに足らん、歐洲の諸都市は之と異なりて其創建も早かりしを以て今日の京都市の如く道路の狹隘を感じたる時代ありし事は歴史に徴しても証する事を得べく其一例を擧ぐれば倫敦市に於ては十九世紀の初葉に於て著しく道路擴張の必要を認め千八百六十年頃より其取揚げに着手し百難を排し遂に十九世紀の末葉に至りて殆んど完成せり而して其千八百八十一年より千八百八十一年に至る廿年間、於て爲めに費したる金額を見るに實に壹億五千萬圓に上れり、而して其事業を實施するの困難は今日京都市に於て實施するの困難に比して如何ぞや沿道の家屋は本邦に於けるが如き低き木造に非るなり、地價の高低亦本邦諸都市の比に非るなり加之既に存在せる道路の幅員も京都市の現通路より廣かりしを以て其事業たるや所謂必要の度は京都市の今日よりも少くして困難は遙かに大なりしものと云

ふ事を得べし尙ほ本邦の諸都市を見るに東京市は既に道路擴張市區改正の必要を認め目下着々實行しつゝあり名古屋と云ひ大阪と言ひ何れも幾分實施せられざるはなし、翻て京都市を見るに實施困難の度は大阪東京に比し遙に下位にあり而して其必要の度は其等の比にあらざるなり。

▲京都市の道路擴張は復舊工事なり、終りに臨んで一言すべき事は道路擴張は京都市にとりては新事業にあらず全く復舊工事なる事なり、何を以て此言をなすや京都の歴史を見れば此言の奇ならざるを知らん抑も今より一千餘年前桓武帝の朝に當りて創建せられたる平安京を追想せよ其當時にありては外國との交通も殆ど皆無にして僅かに支那朝鮮と相往來せるに過ぎず故に據りて以て考參の資ともなすべきものは只支那の都市のみなりしならん然るに其の建設せられたる平安京を見るに區劃整然一定の法あり而して其の道路の幅員の如き

朱雀大路にありては實に四十餘間三條通四條通の如き十餘間を有せるを見る實に其規模の大なるに驚かざるを得ざるなり更に其時の技師の手腕に感歎せざるを得ざるなり若し當今に至るまで舊觀を維持し得たりと假定せば電氣鐵道の復線も敷設せしなるべく人車道の區別も出來しなるべく其規劃の整然たると共に實に萬國に誇るに足りしならん併しながら政治的都市たりし結果王朝の盛衰政令の張弛と共に市街も幾多の變遷災難に遭遇し或時は祝融の犯す所となり兵火の蹂躪する所となり再び市街を築くに當りては當代の技師亦初代の技師の如く先見の明もなく百年の大計もなく遂に年を経るに隨ひ今日の現狀に至れり故に今日道路を擴張せんとする者は事業から云へば新事業ならん然れど歴史上より觀ば一の復舊事業たるを想はば京都市民は其祖先に對しても厭起一番せざるを得ざるなり然らば擴張するに當り如何なる路線を採り如何なる方法により幾何の幅員にな

すべきかは後日の談に譲らん。



博士井上密氏の京都觀

▲京都の現狀は後家の生活の如し 一言以て京都市の現狀を評すれば後家の生活の如しと云ふの外なし京都なる家柄は昔は随分位置もあり身代もある家なりしも働手の亭主に死に分れお扶持に離れし爲め後家は遂に其有金の利子に依りて一家を維持せざる可らざるに至れり左れば随て少々の屋漏位も修繕する能はず門や塀の破損も亦顧みるに遑なきに至れり然れども此後家は存外瘦我慢と自惚心に強く如何に亭主死せしとて吾家は先祖代々の名家なりマサカ此家を取拂ひ裏柵に引込む譯には行かずマサカ此儘にて行けぬ事あるまじとて家政の一大改革をも斷行する能はず左りぞて立派な番頭を雇ひ入れ

技量ある支配人を聘し益々家業を擴張する事は尙更以て出來ず而して其家運は次第に衰頽し幾年の後には遂に家藏も人手に渡り折角の名家も自から破滅するに至る事は女の淺智慧にて悟る能はざるは誠に憫むべしと云ふの外ない。

▲又一片の同情なきにわらず而して此京都を經營するに就ては府の長たる人も市の長たる人も夫れ一職責を以て調査研究しつゝある事なれば吾々局外者の彼是れ容喙す可き限りにわらざるも何様三十餘万の人口を有し三都の一として數へられつゝある大都府の萎靡不振今日の如きを見ては吾々も又一片の同情なきにわらず左れば余は曾て菊池前文部大臣に向ても京都の爲めに策るに此際大に實業教育を奨励せざる可らず差當り國家の事業として高等の實業學校を設置すると同時に市の事業として盛に徒弟學校職工學校等の如き者を建設せしめ根本的に京都の實業界を刷新するは刻下の急務なりとの

事を建言し又商工談話會其他に於ても今日の京都策としては西陣織物陶磁器染物繡刺其他市に於て著名なる商工業に大に奨励を加へ其手段として一大物産販賣所を設立して大に販路擴張の方法を研究し更に其附屬事業としては陳列所を置き全国各地は云ふに及ばず時歐米各國より目新らしき物品を購入して之に陳列し以て營業者の参考に資するが如き尤も必要の事業なる可しとの事を演説せし事ありたり然るに其後幸にして高等工藝學校は國家の事業として設置せられ京都染織學校も又追々發達しつゝある者の如きも徒弟學校及び職工學校等に對しては未だ何等の設備すらあるを聞かず圓山には京都館とか云へる妙な者出來しも斯の如きは殆んど兒戯に等しく却て京都の体面を汚すに過ぎざるなり殊に其高等工藝學校及び染織學校の如きも肝腎の市の商工業者は却て知らざる者の如きは吾々の解する能はざる處なり。

▲京都市は何に依りて其繁榮を維持するか 抑も都市の繁榮を維持せんを欲せば政治の中心となるか 商工業の中心となるか 若しくは政治若しくは經濟の發動力たる可き一種の機關なる可らず然るに今日の京都市は到底政治の中心となり政治の發動地となる能はざるは何人も認むる處ならん左りとして自然の形勢近く大阪を控へ居れば此地を以て商工業の中心とし商工業の發動地たらしむる事も亦頗る困難の事業なり京都市の形勢夫れ斯の如し然らば京都市は何に依りて其繁榮を維持し何に依りて其發達を期するか之れ尤も注意を要し尤も研究を要す可き一大問題なり。

▲遂に第二の奈良たるなき歟 京都市の政治的都市たる事能はず又經濟的都市たる事能はざる夫れ斯の如し左れば今日の形勢にて推移せば遂に第二の奈良たるを免れざるは自然の趨勢なり否現に其傾向を示し居れり名古屋の如き神戸横濱の如き將又廣島の如き人口の上

に於てコソ京都に如かざる者あるも自然の形勢と人爲の企畫經營とは何れも皆屢々として發達の氣運に向ひつゝあれば其久しからずして吾京都を凌駕するに至るは蓋し免る可らざるの歎なり左れば何れにしても京都市が日本三都の一として永遠に今日の位置を維持するは頗る困難の事業なり然れども市民の決心如何に依りては優に今日の繁榮を維持し更に進んで一を加へ二を加ふる位の事は絶對的に不可能の事にもあらざる可し是れ吾輩が常に市人の爲め一片の同情を表し又常に市人の爲め深く憂慮する所以なり。

▲唯一の京都策は實業の振作に在り 而して其實業振作策は夫に實業教育を奨励し根本的に市民の腦髓を一洗する元より必要の事なり然れども此種の事は教育のみにては直ちに其効果を奏す可くもあらざれば局に當る者は斷乎たる決心と不拔の精神とを以て大に保護獎勵を加へ更に進んでは公共の事業としても大に企畫經營せざる可ら

す然るに今日の市當局者が果して斯の如き考にて能く其責任を盡しつゝあるや否や、肝腎の當局者は醜業者の団体たる祇園女紅場とやらに紛議起れば全力を注ぎて之が爲め奔走せられし事を聞くも西陣織物組合の萎靡不振紛議の絶間なきも當局者が之が爲め幾干の力を添へしを聞かず、京都市の繁榮策とか稱し巨額の費用を投じ四條橋に電気裝飾を施し大に市民の放蕩を奨励せられつゝあるも實業教育若しくは商工業の保護奨励には存外冷淡なる者の如く市役所に勸業課なる者あるを聞けど其勸業課が市商工業の前途に對し如何なる方針を以て如何なる事業をなしつゝあるやは吾輩不幸にして未だ聞く處なし或は疑ふ京都市の所謂勸業とは遊廓を繁榮せしめ他地方人の懷中を搾取ると云ふ事が唯一の目的にあらざるなきかを然れども何ぞ知らん他地方人の懷中を搾り取らんとするは偶々却て自から益々墮落し自から益々柔弱に陥り自から其生産力を削ぎつゝある所以なる事

を故に余輩をして言はしむれば京都市今日の策は宜しく積極的に殖産興業を起し其他の事は又顧みるに及ばざるなり上下水道の布設道路の擴張公園の設置等何れも皆必要の事業にあらざるなし然れども斯の如き事業は寧ろ贅澤なる事業なり金錢の有り餘りたる上の仕事なり今日の日本にては未だ上下水道の設備あらざる市街は決して少なからざるなり然れども之が爲め敢て甚だしき支障あるを聞かず道路を擴張するもか茶屋通をなす者の車の通行に便ならしめんが爲めに在らずしてツマヤは實業を振作せしめんとするの目的に外ならず換言すれば人間の最大目的は金を儲け圓滿なる社會を形ち造らんとするに外ならざれば都市として先以て市民をして其目的を達するに便ならしめ以て其土地の富を計り其土地の繁榮を期せんか之れ等の事の如きは知らず識らずの間に自から設備せらるゝに至る可し。

▲今△の世△の教育△は抑△も誤△れ△り△之△は獨△り京△都△市△の△み△を△咎△む△可△ら△ざ△

るも余輩の見る處を以てすれば今の世の教育なる者が抑も既に誤れり一例を擧ぐれば各中學等にて大工となるか左官となるか將又靴屋となるか餅屋となるか分らざる者に無暗矢鱈に物理化學數學などを複雜なる學科を教授せしめて果して何の効がある左れば余輩の意見に依れば既に高等小學の全科若しくは其二三學年の程度を終れば生徒の父兄保護者其他の關係者は能く其教育者とも打ち合せ生徒一身の都合周囲の事情其嗜好成績等をも十分に調査し其方針を決定し而して其最高學府まで進み得可き見込ある者は其方針に依りて教授し然らざる者は各其定る處の目的に據りて専門の學科を修めしむるに如かざるなり更に女子教育を見るも高尚なる音樂を學ばしめ茶生花を稽古せしむるより寧ろ其暇に直接必要なる裁縫料理等の法を學ばしめ家計とは直接の關係なき國語詩歌を學ばしめんより寧ろ完全に書東文を書かむる事を稽古せしむるに如かざるなり而して京都の如

動みすれば文學美術とか云ふ事のみは重きを措くの嫌ある土地括には殊に殊に努めて此弊害を矯正するの必要ありと云ふ餘輩が此地に於て殊に實業學校の設置を主張する所以なり

▲能はざるにあらざる爲なるなり市人は又動みすれば云ふ京都に於て商工業を發達せしめんとするも地勢の不利不便なる到底十分の成績を得る見込なしと夫れ或は然らん然れども一方に於て不便不利あれば他方に於ては又便益なきにあらざる況んや琵琶湖の水方の如き若し京都市人にして十分之之を利用せん乎無限の富源と云ふも決して不可なし然るに夫の水力電氣事業の計畫は果して着々進捗しやあるか若し私人の事業として成す能はざれば是れ等の事業コソ公共の事業として速かに完成せしめざる可らず新に水力電氣事業を起すは容易の業にあらざるも現在の疏水運河現在の水力電氣の如きも當局者にして今少しく注意を拂ひなば更に有益の事業に利用し

更に其効果を収めしむるは決して難事にあらざる可し、京都市民が折角他に率先して斯る事業を起しながら、十分に之を利用し能はざるは京都市人の爲め深く惜む處なり、若し現在の電力にて不足を感ずる場合は市内の街燈に使用しつゝある電力の如きは断然廢止するも差支あらざるなり、市内は黑暗となるも提灯を携へて往來すれば夫れにて差支なき譯なり、由來日本人は提灯を携へて歩く事は平氣の民なり、況んや街燈を廢せしめて直ちに暗黒とはならざるなり、而して一方に於て此電力を應用して工場の一ヶ所にて起せば市の富は夫れ丈増加する譯なり、其他舞鶴鐵道線速成事の如きも三十餘萬の市民にして斷乎たる決心にあらば其目的を達する決して不可能の事にあらざる可し、然れども今日の如く市の當局者も多數の市民も及び腰にては到底其目的を達する能はざるなり、西陣機業地の如きも動もすれば同地には非常の情弊蟻居れば到底改善する能はずとの事は市の有力

なる人々よりも數々耳にせし事あるも余輩の見る所を以てせば苟も職責ある者上に在りて十分の力を盡さば同組合に一大改革を加へ同機業地に一大刷新を加ふる位の事は朝飯前の仕事なり、要するに今日の市當局者は能はざるにあらざして爲さざるなり、獨り今日の當局者のみならず凡ての京都市人は「暗かすは暗かして見しやう時鳥」的にあらざして「暗いたら聽かう時鳥」的に京都市の發達を計り繁昌を期せんと欲せば先づ以て此弊風を矯正し大に進取の氣象を養成するも亦頗る必要の事たる可し。

▲百萬圓の市費經濟取て多しとなさす 今日市費經濟は年々百萬圓以上を費し居り、百萬圓の市費經濟取て多しと云ふに在らざるも其爲す處を見れば多くは姑息なる道路橋梁の修繕申譯的の衛生設備若しくは無用の長物たる古社寺名所舊蹟の保存等何れも皆消極的に空費として一として見る可き者なきにあらざや、古社寺の保存名所舊

蹟の維持など云へる事は殊に余輩の最も反對する處なり市内に於ける幾多の寺院幾多の殿堂の如き寧ろ之を破壊して工場にても充つるに如かざるなり高雄が下りなるとも智恵院が下りなるとも夫れ等の事は市公共の事業として毫も頓着するに及ばざるなり左れば之れ等の費用を轉じて實際市の富を増加し市の生産力を増加す可き有金の事業に充てなば百萬圓の市費決して多しとなさず百五十拾萬圓貳百萬圓多々益々可なり然れども今日の狀態にては京都市として年々百萬圓の市費を要するは實に贅澤の甚しき者ぞ云ふ可し。

▲自尊の意氣なかる可らず 而して多年の弊習を矯正し大に市行政の刷新を計るに就ては大人物を要するは勿論なり苟も有爲の人物なれば其土着人たるも他地方人なるも之を問はず大に之を歓迎するの精神なかる可らざるは勿論なり然れども既に苟も三十餘萬の人口を有する一大都府たる以上は大に獨立自尊の意氣なかる可らず苟も

撰ばれて其行政機關に長たる人は地方長官等は意の如く使ひ廻す位の意氣なかる可らず元來命の世の官吏なる者は一期半期の折助と同様にしなかる可らず

●殊に地方官の如き誠實に其地方人民の利益を計る者として絶無と云ふも不可なれば之れ等の者に信頼し之れ等の者の鼻息を伺ふが如き事にては到底一市の体目を維持し一市の繁榮發達を期する能はざるなり現に大阪の如き現在の鶴原市長と高輪府知事とを比較して其人物の高下は敢て論評す可き限りにあらざるも鶴原市長自からも多數の市民もよし市長が知事を使ひ廻す能はざる迄も決して其下風に立たずとの意氣ある事は何人も雖も認むる處ならん京都市又然り獨り吾京都市果して如何今の市當局者も多數の市人も果して此の意氣あるや否や疑なき能はざるなり。

▲社會的制裁なかる可らず 唯一の京都策として實業の振作を計ら

んと欲せば、當局者に其の人を得て大に行政機關を改善せざる可らざる事夫れ斯の如し而して之と同時に寧ろ、大なる必要は社會的の制裁是れなり然らざれば如何に當局に其人を得其政策如何に宜しきを得るも何か一事業を起さんとする毎に一種の弊害之に伴ひ折角の好事業も唯だ徒らに一部奸曲の徒の私利を逞する機關に供せらるゝが如き事あらしめば到底市行政の改善發達を期する能はざるなり左れば十分に之を牽制し得可き鞏固なる社會的制裁なかる可らず而して現時の京都には果して能く此制裁ある乎、多數の市民に果して其覺悟あるか、昨今一の問題たる五條警察署敷地事件の如き若しくは夫の街廁尿尿汲取事件の如き余輩未だ其事實を詳にせずと雖も果して一この新聞紙に傳へ世間に傳するが如き事實あらしめば社會は宜しく之れ等奸曲の徒の面に睡して又再び社會に起つ能はしめざる可らず、嚴酷なる社會的制裁を加へて斯る罪惡を再びせしめざるの用意な

るべからず若し又果して斯の如き事實なり其世間に喧傳する感は全く虚構ならしめば其嫌疑を受けし本人は自己の体面と名譽とを維持する上に於ても又一の公人としても十分に其事實を辯解し以て世の疑を解く責任を有する者にして之に關與せし會員職員なぞ云へる人々も又其職責として其事實を明にせざる可らず然るに斯の如き風説の行るゝ一再に止まらざるに係らず社會の多數も對岸の火視して知らざる者の如く局に會員職員たる人々も敢て怪む處なき者の如く肝腎の本人も不正漢と呼ばれ公職を濫用せし者なりと醫らるゝも觀として知らざる者の如きに至りては余輩は京都市人の餘りに無神経なるに一驚を喫せざるを得ざるなり而して斯る現象を見る者要するに多數市人の未だ自治の何物たるを知らず社會公共の何事たるを解せざるに依らずんばあらざるなり。

▲市人は又知識を利用する事を知らず 面して更に一面より觀察す

れば市人の斯の如く幼稚なる又決して偶然にあらざるなり如何となれば京都市人は先天的に文明の學術知識を利用する事を知らず又學術知識ある者の言を聴く事を喜ばざるの民なればなり試に見よ苟も市人にして學者の知識を利用せんと欲せば京都の如く便利なる地は得易からざるなり學術を應用するの工夫を講せんと欲せば此の地の如く都合よきはあらざるなり大學には各専門の學術知識に卓越せる二百餘名の博士學士あり高等學校高等工藝學校其他に於ても又決して其人に乏しからざるなり然れども市の商工業者が未だ此種の入々の知識を利用せし事を聞かざるのみならず市の紳士紳商と稱せらる人々の多數も芝居を見淨瑠璃を聴き新内祭文を聴くを喜ぶも學者の演説講話には耳さへ傾けず青樓旗亭に出入して藝妓や仲居に且那且那と尋ねせらるるを喜ぶも知識の卓見ある人と共に一堂に語る事は努めて避けんとするは今日の狀態にあらずや斯の如くにして日に

進歩しつゝある今日の社會に處せんと欲するも豈に得可けんや
 京都は教育地として尤も望みあり唯一の京都策は實業の振作にあり事は不動かす可らざるの定論なるものと同時に此地を以て一の教育地とし文化の中心となすは頗る適當の措置にして尤も望みある事業なり想ふに國家が此地に大學を置き高等學校を置き又高等工藝學校を設置せる所以の者此意に外ならざる可し地勢の上より云ふも關西文化の中心点としては尤も適當にして歴史の關係又自から教育地たるの事實を示し居れり若市人にして此覺悟を以て企業經營する處あらしめば唯だに一の京都策たるに止まらずして又國家に裨益する處少なからざる可し余輩の此言をなす者決して唯だ徒らに辯を好むにあらずして其間一片の同情存すればなり。

法學士綿貫吉秋氏の西陣論

法學士綿貫吉秋氏は多年日本銀行京都出張所長たり、京都經濟界の事情は觀として常に尤も能く調査研究せらるゝ處にして、又尋常一様皮相の觀察にあらずるなり、唯だ氏今日の位置未だ直ちに悉く之を今日に發表する能はざるは編者の遺憾とする處なり、而も其間自から京都經濟界の狀態を知るに足る者少なからざるなり、讀者先づ以つて之を諒せよ。 編者附記

京都市人は動もすれば曰く京都は山紫水明の樂天地なり、東洋の公園なり、美術工藝の叢淵なり、名勝舊蹟の所在地なり、此地の繁榮は之に依りて維持せざる可らずと、成程此の主張も敢て絶對的に排斥す可らず、然れども唯だ單に之に依りて京都なる一大都市の繁榮を永遠に維持せんとするが如きは到底不可能の事にして、何か他に確乎たる根據なかる可らず、而して今日の京都に於て其根據を需めんと欲せば、實利的事業ならざる可らず、而して其實利的事業は西陣機業を措きては他に求むる能はずとは、余輩多年の素論にして、去卅二年、祇園中村家に於け

る西陣機業家大會の席上に於ても、此主旨を演說せし事ありしが、今日人の京都策を問ふ者あるも、又此一事を以て答ふるの外なし。

抑も都市の繁榮を維持せんと欲せば、政治宗教若しくは經濟等何か一の據る處なかる可らず、而して政治を以て中心とし、政治に依りて其繁榮を維持する土地は、其主權者にして一度他に移轉し、其中心を失はんか、其土地は之と同時に直ちに衰頽するを免れざるなり、宗教を以て中心となす都市は、歐洲に於ても其例なきにあらざるも、其變遷頗る稀なると同時に之に依りて或程度以上の大都市となり、或程度以上の發達をなす能はざるは之を古今東西の歴史に徴して明なり、之に反して經濟的都市は、其根據尤も堅く其膨脹發達又尤も望みありと云ふも不可なし、然るに吾京都は千有餘年の昔、桓武天皇英明の資を以て都を此地に奠め給ひ、自から種々企畫經營せられし以來、政治の中心として其繁榮を維持し、更に降つて足利氏時代に至りて、西陣機業地は益々發達せ

もと同時に密だに政治的都市たるのみならず又経済的都市たるの事實を示すに至れり尤も其當時西陣なるもの此地に起りしは皇室は云ふに及ばず百官公卿其他地方の豪族等も此地に蒐集し西陣製産品の如き贅澤なる機物の需用を感せしに依りたる者なる事は又云ふ迄もあらざるも其事業の追々發達するも同時に其基礎益々盛く其後世運の變遷と共に政治の中心は東に移り京都は遂に政治的中心たるの實を失ひしも獨り西陣機業地は依然として存續し以て今日に至れり京都が尙ほ今日の形勢を維持し得る所以の者全く之が爲めなり換言すれば即ち京都市の繁榮を維持せし半面の要素は全く失ひしも尙ほ幸ひして其半面の要素を有するが爲めなり之れ余輩の唯一の京都繁榮策は西陣機業地の發達にあらずと云ふ所以なり。

余輩の調査する處に依れば西陣機業地年々の製産額は參千萬圓と見れば大差なかる可し指を屈するも一ヶ所にして能く參千萬圓の製産額

を有する者果して何くにかある獨り大阪及大阪附近に於ける綿糸製産額は殆んど之に近きも其範圍たるや頗る廣く之を目して一ヶ所の製産額と云ふ能はざるなり而して獨り吾京都に斯の如き一大製産を有するは實に此地の名譽にして此地の繁榮は之に依りて維持する又決して偶然にあらざるなり試に統計的の數字に依りて語るも先づ一ヶ年の製産額を參千萬圓とすれば各地より其原料を生糸商人の手に輸入するに就ても少くも貳千七八百萬圓の資金を運動す可く而して更に之を機業家の手に廻し機業家は又之を織物として問屋即ち仲買の手に渡し仲買は更に之を各地の仕入れ商人若しくは此地の小賣商人に販賣する者とせば少くも其資金は四回以上の廻轉をなす譯なり而して其金額は生糸商人よりは機業家機業家よりは仲買仲買よりは仕入れ商人を果進的に増加するも假りに平均參千萬圓とするも三四の壹億貳千萬圓の資金は全く西陣機業の爲め運轉する譯ならずや又

以て京都と西陣とが如何に重大の關係を有し西陣機業地が此地の繁榮を維持する上に於て如何に重きをなすかの一斑を知る可し。唯だ單に西陣機業に依りて此地に運轉する資金を計上するも尙ほ斯の如し更に其他の方面より觀察すれば西陣の機業に従事する者約五万人とするも此五万人の事業即ち西陣機業なる事業存在する爲め直接間接に之に依りて生活する者は更に大なり即ち生糸商綿糸商搦糸再製業者染物業者悉皆業者染料商其他の如き悉く直接に西陣の機業に依りて自己の營業を維持する者にして此地に於て尤も多大の勢力を有する仲買人即ち問屋業者の如き尤も其大なる者なり而して更に五万人の西陣機業家及び幾多の附屬業者に依りて間接直接に生計を營みつゝある市人に至りては更に大なる者なる可し其事業の何たると其種族の如何なる人々たるを問はず茲に一定の人員住居すれば其人員に衣服飲食其他日常の需用品を供給するが爲めに生活し得可

き者は少くも其人員の三分の二に達し得可しとは普通の定則なり之に依りて計上するも西陣機業家及び其附屬業者に依りて生活しつゝある者は如何に多大なるかは自ら明にして京都市の七八分通りは全く西陣機業に依りて其繁榮を維持し京都市三十餘万の人口中其七八分は西陣の餘澤によりて生活しつゝある者と云ふも決して過言にあらざるなり世人動もすれば宗教の京都に繁榮を來すの多大なるを説き又名所舊蹟等の勝區を觀覽する者の爲め市民の利益を蒙る少なからざるを説く然れども審に其實を調査し統計的に之を計上すれば此の如きは所謂九牛の一毛に過ぎざるなり其他陶磁器漆器刺繍等幾多の工藝品なきにあらざるも之を一年參千萬圓の西陣機業に比較す可くもあらざるは業に既に何人も認むる處ならん殊に之を余輩多年の専門たる銀行事業に徴するも幾多の京都本支店銀行中にて最も直接西陣機業家に關係あらざるも直接間接に西陣機業に關係を有

せざる者としてはわらざる可し否な京都銀行業の八九分通は西陣機業
 家及び其附屬業者の爲めに營業しつゝある者と云ふも不可なる可
 し宗教の勢力多大なりとて之に依て其營業を維持しつゝある銀行業
 者果して幾干かある陶磁器漆器其他工藝品と銀行との關係又知る可
 きのみ然りと雖ども余輩は之を以て直ちに此種の事業は顧みるに及
 ばざるなり區々たる小事業は萎靡衰頽するも差支なしと云ふにあら
 ざるなり陶磁器漆器は勿論益々保護獎勵を加へざる可らず刺繡其他
 の工藝又益々改善を加へざる可らず名所舊蹟の維持保存に力を盡し
 内外の觀光者を吸引するの計を講ずるも又大に可なり唯だ多數の市
 人が動もすれば因習の久しき却て其土臺たり根本たる西陣機業地な
 る者を忘れ徒に枝葉の問題のみに傾注するなきかを疑ふ者なり。
 然るに余輩は今茲に市の當局者及び多數の市人が今日の西陣に對し
 如何なる觀念を有し如何なる態度を採りつゝあるかを論せんと欲せ

ば勢先づ仲買人と機業家との關係より述べざる可らず余輩は常に云
 ふ生糸商人及び機業家仲買の關係は宛も尙ほ一本の木の如く仲買は
 枝葉糸屋は根機業家は即ち其幹部にして相俟つて生存發達せざる可
 らざるは云ふ迄もわらざるなり然るに目下の状態果して各其本分を
 盡し相俟つて益々發達生長しつゝあるや否や問屋も機業家も糸屋も
 常に相反目し稍々もすれば利害相反するが如き傾向あるは今日の状
 態にわらずや余輩今日の位置として其間の消息に就ては多言するを
 好まざるも試に全國至る處の機業地殊に晩近益々進歩發達しつゝわ
 る機業地に於ける機業家と問屋との關係を調査し更に之を吾京都に
 比較對照するに及んで思ひ半に過ぐる者なきにわらざるなり。
 余輩の知る處に依れば全國至る處の機業地にては其機業家と問屋業
 者と相反目し問屋業者は常に機業家を壓して其利益を壟斷せしが如
 きは全く昔日の舊夢にして今日にては問屋は常に機業家を誘導啓發

し、問屋の任務として常に各地の流行變遷若しくは各機業地の状況等を調査して之を機業家に報告し機業家の参考に資し時に或は特種の意匠工夫を授け時に或は機業家を伴ひて各地の状況を視察する等問屋は即ち機業を以て殆んど自己の營業とし共に、各自の利益を收め併せて一地方の富源を増進する所以の工夫を講じつゝあるは比々皆然らざるなし然るに獨り吾京都にては西陣機業家と中京邊問屋との關係は果して斯の如く圓滿なるや否や中京邊の問屋業者は果して成る可く西陣機業家にも便宜と利益とを與へ而して自己も之に依りて利益し更に進んでは吾京都市の繁榮も之に依りて維持せざる可らずとの觀念を有する者ある歟極言すれば機業家と問屋との取引は殆んど任意の賣買と認むる能はざる者さへなきにあらざるを見れば多數の仲買と雖ども決して機業家に親切にして斯業に忠實なる者と云ふ能はざるなり然らば多數の機業家は何故に斯の如く利益を壟斷せ

られ斯の如く權利を蹂躪せられ尙ほ之に甘ずるかと云ふに其間又察す可き者なきにあらざるなり獨り西陣のみならず此種の工業に従事する者の弊習として今尙宵越しの金は費はずなとの觀念を有し兎角貯蓄の思想に乏しく隨て其資金は常に問屋の供給を仰がざる可らざるは今日の状態なり機業家たる者は勿論自から蓄つて此弊習を打破せざる可らず然れども直接の關係を有すると云んより寧ろ之に據りて其營業を維持しつゝある問屋業者も又其責任を分たざるを得ざるなり獨り問屋業者のみならず行政の局に當る者及び一般の社會も亦大に保護奨励を加へざる可らざるなり然るに今日の狀態多數の問屋は唯自己眼前の利益を得れば其他の事は又顧みるに違わらざる者の如く行政の局に當る者及び一般の社會も京都市今日の繁榮は西陣機業に據りて其大部分を維持しつゝある事は全く忘れたる者の如きは吾の解する能はざる處なり而して茲に特に注意す可きは今日の市行

政機關其他の公團體等にて尤も多大の勢力を占め居る者は即ち他方に於ては資本の力を以て機業家の利益を壟斷し機業家を壓制して唯だ眼前の利益を貪りつゝある中京邊の問屋業者若くは之と利害休戚を共にする者たるの一事なり之れ獨り經濟上の問題として注意すべきの事柄たるのみならず又所謂社會政策の上より見るも大に研究を要す可き問題たる可し由來西陣の地たるや帝だに經濟と社會政策のみならず教育哲學宗教其他諸般の事に就ても尤も面白き研究の材料を有するの地なり余輩は凡ての人が今少しく此西陣に注意を拂はれん事を希望して止まざる者なり而して余輩の西陣改善策としては大に抱負なきにあらざるも要するに多數の市人就中問屋業者をして西陣の利害は即ち自己の利害なりとの觀念を起さしむるは其尤も大なる者にして其他普通教育及び實業教育の獎勵人物智識の輸入取引法の改良等又刻下の急務なり。

尙ほ余輩が一の京都策として必要を認めつゝあるは人物の輸入他地方人の歡迎是れなり然れども余輩の此意見を主張するは一部學者の主唱する如く唯だ漠然京都の人は意氣地なし京都人は因循姑息の民なり故に他地方人に俟たざる可らずと云ふにあらざして又別に自から見る處あり獨り京都人のみならず其土地の情弊を打破し其土地の事業を計畫するは他地方人の力に俟たざる可らざるは社會自然の理なり如何となれば何人にては故郷の氏神祭り程面白く愉快なる趣味を感ずる者あらざるも其氏神祭に存外弊害多き事は土着の人にては容易に悟る事能はざるなり左れば京都の弊害を看破し京都の社會を改善し京都に於て有益なる事業を計畫するは寧ろ他地方人の力に俟たざる可らず故に余輩は常に市の有力者に對しても京都人は何も必ずしも京都なる本城を他地方人に明け渡すには及ばず宜しく自から進んで他地方人を同化せしむ可し他地方人をして設計をなさしめ他

●地方人をして案を定めしめ而して其事業は京都人自から之に當るも
●差支なきにわらずやと説き居れり而して有力者の多數も余輩の此主
●張に對しては敢て反對の言を聞かざるも而も尙は容易に實行せられ
●ざるは之れ又余輩の解する能はざる處なり。



博士大塚要氏の評論

▲人力車夫の禮讓に驚く 余の初めて京都に來りしは京都大學創設
前一年の事なりしが此地に入りて先づ第一に驚きしは人力車夫が己
れより先きに走りつゝある車あれば必らず「御免やすエ御免やすエ」
と一々鄭重の挨拶をなし而して後通り越すの一事なりし之れ彼れ等
社會の禮讓なるならんも客の車に乗ずる者は必すしも徒歩の勞を厭
ひ衣服の裳を損ずる事を怖るゝ者のみにあらずして時間を節約し急

務を便せんとする者も少なからざる可し然るに彼れ等社會の禮讓篤
き爲め肝腎の用務を便する能はず時間を誤るが如き屢々見る處の例
なり況んや「御免やすエ」と挨拶しつゝにても通り越せば未だしも
成るも徒らに合乗の車やヨイの老車夫に遠慮して容易に乗り越
さいるに至りては御客の迷惑此上なきにあらずや之れ人力車夫の一
例に過ぎざるも要するに多數の京都市人は今の世は生存競争の社會
なり社會の凡ては長足の進歩をなしつゝある事に心付かず唯だ徒ら
に千有餘年の京都たる舊夢を繰返しつゝある者なり京都市の進歩發
達せざる又決して怪むに足らざるなり。

▲京都商人は蚤の如し 余は未だ京都商工界の事情を知悉せざるも
某火災保險會社の依囑に應じ往々各工業會社を視察せり然るに曾て
或一會社の機械に其製造所を記せし局部を削取りあるを見其何故た
るやを質問せしに右の機械は全く市内一紳商の手を経て米國より輸

入せし者なり、然るに右の紳商は若し其製造元を人に知らしむれば何人にも直接其製造元に注文するの憂ひあり、其製造元さへ秘し置けば必らず自分に注文す可しとて殊更其局部を削り取りし者なりと然るに何ぞ知らん其局部の記號を削り取りたれ更に細かに機械の局部を調査すれば其製造元の記號は幾ヶ處となく存在せり、況んや其記號あらざるも少しく斯業の心得ある者は一見して何れにて製造せし機械たるやを鑑別し得可く又況んや其製造元にては新聞雜誌に殆んど日々の如く廣告して販路を需め居れり、然るに京都の一紳商は已れ一度之と取引せしとて自己専賣品の如く心得唯だ徒らに製造元の記號を削り加之に其間に於て法外の利を貪り以て商賣の秘訣を得たりとなすに至りては所謂頭を隠くして尻を隠くす事を知らざる蛋と撰ぶ處あらざるなり、斯の如くにして今日の商工業に處せんと欲するも豈得可んや、京都商工業の發達遅々たる所以の者又決して偶然にわら

ざるなり。

▲更に甚だしきは西陣機業家なり 一機械商人の愚元より憫む可し然ども更に甚だしきは西陣機業家の頑冥無智なり、西陣の機業家は圖案意匠の秘密と云へる事に尤も重きを置けり、成程或場合に於て或程度迄は秘密も必要なり、自己の苦心になれる者を直ちに他人の利益に供せらるゝは馬鹿氣たる談なり、然れども圖案と云ひ意匠と稱するに足らざる事柄迄無暗に秘密に附し、夫が爲め却て自己の營業範圍を縮少し却て其利益を他に奪はれつゝある事を知らざるに至りては其愚や遂に及ぶ可らず、聞く處に依れば西陣機業家多數の慣習として新規の品柄を織立つれば先づ四反の見本を製織して當地の仲買人及東京大阪其他に送附するも此地の同業者には堅く秘密に附し置くを常とせり、然るに各地の商人は若し其品柄善良なれば直ちに之に依りて桐生足利其他生産費の低廉なる機業地に於て續々製織し他地方の製産

品として却て此地に輸入するに至りて其本人は初めて一驚を喫し初
 めて馬鹿を見たる事を知るは往々見る處の例なりと均しく其利益を
 專擅せらるゝ者ならしめば寧ろ此地の同業者相一致して熾んに製織
 するに如ざるなり然るに尙ほ此結果を見る者京都人の頑冥不靈唯だ
 徒らに區々たる嫉妬心に驅られつゝあるの結果に外ならざるなり世
 人動もすれば西陣機業の日々に益々萎靡衰頽しつゝあるを慨歎す先
 づ斯種の弊害を根底より一洗するが如き尤も必要の改善策たる可し
 ▲所謂京都根性 頭を隠して尻を隠すを知らざる蚤の愚に倣ふ
 て得々たる者は一の機械商人と西陣機業家とに止まらずして滔々た
 る幾多の京都市人比々皆然らざるはなく之を稱して京都根性と云ふ
 も決して不可なかる可し余輩が火災保險會社の關係者として屢々各
 工業會社を視察するに何れの會社にても努めて凡ての事を秘密に附
 し偶々吾々が吾々の本分として機械の取扱ひ機械の保存等に就き厚

意の注告を與ふれば却て喜ばざるの色あり二三會社の如きは獨り吾
 吾局外者のみならず其株主にすら工場を秘密に附し株主も亦敢て怪
 しまざるに至つては余輩殆んど其意のある處を解する能はざるなり
 尤も一方より云へば株主にも折角會社の苦心に成りし意匠等を直ち
 に取つて以て己れの物とし自己一身の利益を貪るが如き者なきにあ
 らざれば必ずしも會社のみを咎むる能はざるなり要するに京都の商
 工業者は京都なる小天地の間に於て唯だ徒らに嫉妬猜疑の念を以て
 互に相反目し相陥れつゝあるのみにて京都以外に大なる舞臺ある事
 を知らざるなり夫かと思へば一面に於ては努めて他地方人の此地に
 入る者を排擠せんとし即ち土着人以外の人と云へば異人さんも吾々
 同胞も殆んど區別する處なく京都人の眼には凡て異人さんたる者の
 如きは余輩の益々解する能はざる處なり
 ▲矛盾の甚だしき者にあらずや 遊廓を繁昌せしめ美人の魔力を利

用し他地方人の懐中を搾取る可しとは唯一の京都策なるが如し然るに茲に不可思議なるは他地方人が突然此地に入り來りしとて何か手蔓あるにあらざれば其遊廓に入り懐中を搾取らるゝ能はざるの組織となり居るにあらすや左れば此地に於て財布を空にし京都の美人を見京都藝妓の踊りを見んと欲せば勢ひ土着の知己朋友に案内を求めざる可らず然すれば土着の知己朋友は勢ひ自腹を切りて他地方人を案内せざる可らざるに至る即ち他地方人の懐中を搾取るにあらす京都人自から其懐中を空にする譯ならずやよし然らざるも詳かに統計的に調査せば遊廓に於ける消費金中實際他地方人の支出する金額とは僅に其一部分にして其他の大部分は皆土着人の懐より出づる者ならずざるなし又況んや其金錢は直ちに藝娼妓等賤業婦の手を経て旅稼ぎの俳優相撲等の手に渡りつゝあるは蔽ふ可らざるの事實なるに於てをや余輩の眼より觀察すれば天下之より矛盾の甚だしき者あら

ざるなり。

▲之れ又矛盾にあらすして何ぞや 京都市人は京都は日本の勝地なり日本の公園なりなを常に自惚れつゝあるも勝景の地は決して其他にも少からざるなり現に古來日本三景と稱するも京都は其一に加はり居らざるにあらすや成程流石に京都は千有餘年の舊帝都たる丈けありて歴史上種々なる關係を有すれば日本の歴史にても研究する者ならしめば此地に於て尤も多くの趣味を感ずるなる可し然れども日本の歴史の何たるを知らず京都の何たるを解せざる外國人等の眼より見れば決して京都人の自惚れつゝある如く有難しとは思はざるなり可し然るに東山に鐵道を布設すれば風致を損する者なりと云ひ圓山に煙突を造れば公園の体面を損すると云ひ而して却て今の也阿彌ホテルの如き支那の家屋とも西洋風の建造物とも思はれざる不細工の家屋を造り更に其下には商品館とか云へる妙な者を建築して得々

たるに至つては實に矛盾の甚だしき者にわらずや、ホテルの目的既に
 外國人にある以上は成る可く外國人に満足を與へ外國人をして居心
 よく滞在せしむるが如き設備をなしてコソ初めて其目的を達する者
 ならずや、日本人否な京都人の眼より見たる區々たる風致決して心配
 するに及ばざるなり。

▲工業の發達せざるは他に大なる原因存す 論者は又動もすれば京
 都は到底工業の地にわらず、今日迄幾多の工業會社が悉く失敗の歴史
 を繰返しつゝあるに徴するも明なりと主張す、然れども余輩の見る處
 を以てすれば、今日迄京都に於て工業會社の發達せざるは決して地勢
 の不利なるが爲めにわらずして、其間一種の弊害存すればなりと斷言
 するを憚らず、成程石炭は之を大阪邊に比すれば多少割高ならん、其他
 原料を供給する上に於ても時に或は不利なる點あらん、然れども縦し
 石炭が大阪より少々高價なりとて之を其事業全体の上より通算すれ

ば頗る僅少なり、決して之が爲め一割の配當率が八分に減じ七分に減
 するなぞ云ふ事はわらざるなり、原料の供給不便なれば又其他に於て
 便宜なる點なきにわらざるなり、之れ又決して事業興亡の原因として
 數ふるに足らざるなり、然らば京都の工業會社は何故に失敗する者多
 き歟、之れ全く事業の局に當る者に其人を得ざるが爲なり、重役其人が
 不親切なるが爲めなり、余輩が屢々各種の工業會社を視察するに京都
 の會社に使用する機械の如きは何れも非常の高價の者となり居れり
 其機械の取扱保存なぞ云ふ事に就ても唯だ眼前の利益のみを打算し
 て絶て永遠の考なき者の如し、隨て或年限の後には更に大なる資用を
 要せざる可らざるが如きは屢々見聞する處なり、要するに局に當る者
 の不親切なる爲め事業の上に及ぼす損失は間接直接に莫大なるもの
 なり、而して一面其會社の重役たり支配人たる人々は會社の事業は未
 だ十分に成立させざるに已れば既に一時に巨萬の富を起し會社の

工場は未だ竣工せずして重役の邸宅は一時に立派となるが如き屢々見聞する處の事實なり斯の如くにして何んぞ能く事業の成功を見るを得んや然るに多數の株主否京都人たる者は是れ之を察せずして徒らに地勢の不便不利を説く抑も其本末を誤れりと云ふ可し。

▲京都市人と神戸市人 余輩は又鐵道關係者より聞く處に依れば鐵道局に於て第五回博覽會の大坂に開會されしに際し京都神戸の兩驛より賃金半減の臨時博覽會觀覽列車を發するや其京都よりする者は定員六百名に對し毎日五百名以上に達せざる事あらざりしも神戸よりする者は常に其半數にも充たざりし而して神戸人の苦情を聞けば「半減は難有いが之が爲め面倒な時間の制限を置かれては半減位にては引合す」と云ふに在りき即ち神戸人は半減の爲めに時間を牽束せらるゝより寧ろ自分の勝手な時に乗車し而して其一面に於て自己の職務に勤むるに如かずと云ふに在るも京都人は「半減の爲めなら

しめば時間の都合位はドウでも繰合す」と云ふに在り、換言すれば即ち前者は金よりも時間に重きを置き、後者は時間よりも金を以て貴とする者なり、兩市人性情の相反する斯の如し、一は日に進歩し一は日に衰頹する又決して偶然にあらざるを知るに足る可し。

▲徒弟教育の必要 而して京都に於ける實業社會の弊習を改善し京都商人をして文明的の商人たらしむるに就ては其手段方法は尠なからざる可きも先づ以て尤も簡易なる徒弟教育より獎勵するは頗る緊急の事たる可し、余輩は或人の依頼に應じ米穀取引所仲買人中有志者の企畫に係る商業夜學校講習會に參與しつゝある者なるが同會の如き未だ決して完全の者なりと云ふ能はざるも其成績頗る見る可き者あり、初めは有志者の勸誘に應じ恩着せ釜間敷其徒弟を通學せしめ居りし者も昨今に至りては初めて其効果を認むるに至れり、余輩の實見する處に依れば普通の商業學校にては先づ生徒をして約束手形若し

くは小切手なる者の實質を知得せしむるは容易の業にあらざるも此種の學校にては其生徒即徒弟は之れ等の者は日々取扱ひ居る事とて直ちに了解する等頗る便宜なる点なきにあらざれば或場合に於て普通の商業學校にて三年を要する者は徒弟學校にては優に二年にて十分に學修せしめ得可し全体日本の商家就中京都の商賣人は徒弟を使役する畜だに商賣向きの用務のみに止まらずして一家の私事即ち下婢の任務にまで使役するの弊習甚しければ努めて此弊習を改め而して其時間を利用して徒弟に普通の教育を施すの方針を取るは實に刻下の急務なり殊に西陣地方に於て此種の學校二三ヶ處を設置したしとは余輩の常に希望する處なり余輩は此頃市教育會より風俗改良調査委員とか云ふ者に指名せられたり風俗の改良勿論決して悪しき事にあらざる可し然れども余輩をして云はしむれば風俗の改良より先づ以て此種の設備に全力を注ぐに如かず若し市の有志者若しくは當

局者にして此種の事業を起さんと欲せば大學高等學校高等工藝學校其他の職員諸氏も決して一臂の力を添ふる事を惜まざる可く少くも教員丈は無給料にて囑托し得可きの便宜あり聞く處に依れば大阪にては既に平賀義美氏の校長たる商工學校の設置を見るに至りしに係らず未だ此地に於て何等の聞く處なきは遺憾なり。

▲西陣の前途 西陣機業の改良進歩を計り西陣を振興する所以の途を講ずるは實に刻下の急務なり而して其手段方法は以上の如く一方教育の力に依りて職工徒弟より改善すると勿論必要なり然れども之と同時に今の西陣機業家をして西陣以外にも機業地少からざる事を知らしめ西陣機業家をして折々世間の空氣に染ましむるは尙更急務なり世人動もすれば西陣の如き手工的の機業は容易に改善を加ふる能はず今日の儘にて推し移るの外なし抔云ふ觀念を抱き居る者の如きも如何に手術工藝的の者にては決して進歩せる機械を應用し得可

らざるの理なし、今日西陣に於て使用しつゝある機器を見れば何れも舊式の者のみなり、偶々新機械と稱する者あるもホンの一部分に改良を施せしに過ぎざるなり、若し機業家の資本薄弱にして一時に改善する能はずば地方の有力者に於て大に保護奨励を加へ機械購入費として幾分宛を積み立てしめ幾月の後を期して改善せしむるの工夫を講ずるが如き尤も必要の事たる可し、長屋造りと成り居れる幾多機屋の壁を破り通して一の工場とし箇々に散在する五臺十臺の機器を一ヶ所に集め電力を使用せしめ以て其勢力を省き製産品を均一の者となすが如き決して爲し得可らざるの事にあらざる可し、世人動もすれば工場と云へば必らず立派なる煉瓦造りならざる可らざる者の如く思惟するは抑も誤れり、余輩をして言はしむれば日本に於ける工場は凡て之を其他の住居等に比して頗る贅澤に過ぐる者と云ふの外なし。

工學士金子篤壽氏所論

工學士金子篤壽氏職に市立染織學校長に在り自から曰く京都の情弊に就ては余輩も又多少見る處なきにあらず、京都市前途の企畫經營に就ても又大に抱負なきにあらず、然れども既に苟も市公共の一事業に任じ居る以上は未だ十分に之に對する改善の方法、手段等をも講究せず敢て飛りに批評的の言辭を弄するを許さず、然れども自から信する處に依りて希望を語るは余の喜ぶ處なり云々と、今茲に紹介する處の論旨は即ち氏の市に對する希望にして氏は之を以て實行せんと欲せば決して得可らざるの事にあらざるを確信する者なり、讀者幸に之を諒せよ。 編者附記

▲**搾取り主義敢て不可なし** 天然の風光と人爲の設備とを以て旅客の財囊を搾取るの工夫を講ずるも、絶對的に排斥せざる可らざるの事柄にはあらざるなり、就中萬里異域の外國人に十分に満足を與へ十分の快愉を感せしめ而して一面には之に依りて市の繁榮を増進するが如き敢て不可なし、然れども唯だ單に之に依りて此地の繁榮を維持せ

んとするが如きは抑も誤れり況んや搾取り主義とするも今日の如き不完全の設備にては未だ以て搾取り主義の都市と稱するに足らざれば搾取り主義ならしめば搾取主義らしき十分の設備なかる可らず而して其搾取主義の都市として十分の設備をなすに當りても先づ第一に必要を感ずる者は資本なり經費なり然るに何か一の事業を起すに當りても確乎たる基本財産なく啻だ徒らに有志の寄附金若しくは臨時の収入を以て目的となすが如き事にては往々失敗するが如く都市としても確乎たる基本動可らざるの收得あるにあらざれば決して十分の事業をなし得可き者にあらざるなり左れば京都市百年の長計を定むるに當りても先づ以て確乎たる産業を求め動可らざるの所得を發見し以て此地繁榮の基礎とし而して後搾取主義の設備に着手するの覺悟なかる可らず否其根據に定まらば搾取り主義の設備の如き知らず識らずの間に自から完美するに至る可く又敢て深く有力

者の御心配を煩すに及ばざるなり。

▲何を以て京都市繁榮の基礎となす乎 然らば何を以て此地の繁榮を維持する乎何を以て此地の基礎となす乎京都市が工業地として適當なるや否やに就ては識者の間に於ても種々議論あるも余輩の見る處を以てすれば由來京都市は四面梗塞の地水運の便利もなく道路も亦狹隘にして種々なる不便不利少なからざれば將來煙突林立の大工業地たらしめんと欲せば寧ろ近き伏見を經營して之に充つるの便利なるに如かざるなり而して今日の京都市は歴史上の關係より見るも周圍の事情より察するも將又先天的の要素ある職工等に富む点より云ふも既に今日此地の一大産業とし知られつゝある西陣機業及び染物陶磁器七寶其他刺繡等の産業に向て大に保護獎勵を加へ以て永遠に此地の繁榮を維持する所以の計を定るに如かざるなり而して此事たるや府市行政の局に當る者若しくは社會先進の人士にして其覺悟だにわ

らしめば敢て不可能の事にわらざるなり尙ほ更に一步を進めて余輩の理想を述べれば教育の一事尤も此地に適すれば吉田町及び川東の一部は將來の學校地とし幾多の公私學校を此附近に建設して優に關西教育地の中心たるの實を示し而して今日の西陣其他上京區の一部は將來の一大機業地西洞院堀川其他下京區の一半は染物業の範圍内とし其他陶磁器七寶刺繍等夫れ々其處に據りて益々自己の事業を發達せしめ將來の大工業地たる伏見と相俟つて其繁榮を維持せば日本舊帝都たる京都の位置を將來永遠に維持する事能はざるにわらざるなり然れども今日の如き状態にて推移せば遂に第二の奈良たるを免れざるなり。

▲當路者の職責を疑ふ 而して其目的を達せんと欲せば府市の當路者其他商業會議所等に於て常に保護獎勵を加へ時に或は公共の事業として種々なる設備を施す等十分に啓發誘導するの覺悟なかる可ら

す就中實業教育の如き當然當路者の任務として十分に設備する處なかる可らず然るに今日の府市當路者若しくは商業會議所等は果して其任務を盡しつゝある者と云ふを得可さ乎府知事以下府の當路者も西陣機業地などの事に對して格別力を添へられしを聞かず市役所にも勸業課らしき者あるも西陣などは殆んど眼中になき者の如し余は嘗て市の當路者に向て今少しく西陣の事に力を盡されては如何との問を發せしに當路者は「西陣はドウも仕様がおへん」とて平然たるに至つては余も又噤然たりき若し夫れ商業會議所に至つては今日迄市の商工業に關し如何なる事業をなし如何に貢獻する處ありしか余輩の察聞なる未だ何等の知る處なし。

▲西陣を顧みる者なき又偶然にあらす 唯一の京都策として現在の各種工業に對し大に保護獎勵を加ふる者とせば何を以て尤も重しとなす乎何れに向て先づ手を下さかど云へば云ふ迄もなく少くも年々

貳千萬圓以上參千萬圓の製産額を有する西陣機業にいて之れに次ぐは即ち之れ又由來京都の一名産たる染物業なり其他の陶磁器七寶刺繡等に至つては現在の産額頗る僅少にして將來も非常の發達をなすの見込少し然るに其西陣に對する當路者の冷淡夫れ斯の如し然れども當路者をして斯の如くならしめ當路者をして「西陣はドウも仕様が「おへん」として平然たらしむる所以の者又決して怪しむに足らざるなり如何となれば西陣の機業家は唯だ徒らに尊大自から居り毫も他人の言を容るゝ事を知らざればなり西陣の機業家は西陣の如き仕事はドウに往つても出来る者にあらず何と云つても吾西陣は日本機物の本場なりと自惚れ毫も文明の學理を應用し進歩の機械を利用する事を知らざればなり獨り他人の忠言を容れ他の刺戟に感ぜざるのみならず偶々同業者中にては歐洲の機業地なきを觀察し若しくは識者の意見を聴き少しく耳新しき議論をなす者あれば多數の機業家は生

意氣なりハイカラーなり行ひ得可らざるの空論なりとて却て頻りに之を攻撃するより其人も遂に自から黙するにあらざれば去つて他に事業を經營するが如き往々見る處の事實なり京都の出身者にして市の補助を受け久しく佛國に留學し機業に關する専門の知識經驗を得て歸朝せし夫の近藤徳太郎氏が遂に西陣に容れられず今は去て栃木縣立工業學校長たるが如き又一例たらずんばあらざるなり余輩は若し西陣機業家にして近藤氏の如き有望の人士を容るゝ能はざれば府若しくは市に於て何故に之を採用せざりしかを疑ふ者なり然れども一面より言へば斯の如き有様なれば當路者の西陣を顧みざる者又決して怪むに足らざるなり。

▲西陣は瀕死の一大病人なり、成程西陣機業家の自惚れつゝある如く今日にても同地には随分精巧の織物少なからざるなり随分見る可き者なきにあらざるなり然れども如何せん西陣機業家の自惚れつゝ

ある其間に其他の機業地にては一意専心に之を研究し今は決して西陣に劣らざるの織物を見るに至れり況んや西陣は依然として舊式の機器を用ひ在來の方法に據りつゝあるも其他の機業地にては進歩せる新機器を利用し學理を應用しつゝあるを以て自から製産の費用を減少し西陣機業家は勢ひ之と競争する能はざるに至れり現に既に業に羽二重は福井に奪はれ御召は桐生足利等に移り着尺類は新潟に蹂躪せられつゝあるにあらすや試みに高島屋其他中京邊に於る多數問屋の荷物を調査すれば表面は京都の製産なり西陣織物なりと稱しつゝあるも其實之れ等の地方より仕入れ居れる者は決して尠少ならざるなり即ち事實の上に於て西陣の機業は日に月に其勢力を侵略せられつゝある者なり偶々綴織其他一二の美術的織物は尙ほ他の機業地に於て類例を見る稀なるも之れとて決して西陣獨古の事業と稱する能はざるなり如何となれば之れ等の織物と雖も京都にあらざれば

得可らざるの原料を要するにあらす京都にあらざれば製織する能はざる事情存するにあらすして職工にあらば何れの地方にても製織し得可きも而も尙ほ各地の機業家が之を爲さざる者此種の織物は唯だ徒らに多額の製産費を要するのみにて其販路も頗る少く眞の物産として憑むに足らざる事を看破し居れるが爲なり然るに獨り西陣機業家の之を以て唯一の憑みとし到底他の企て及ばざる處なりとて自惚れつゝあるに至つては思慮あり先見ある人々の行爲と云ふ能はざるなり換言すれば即ち西陣機業地は今や死に瀕するの一大病人にして若し此儘に打棄て置かば到底死を免れざるは明なり中澤博士は今日之の京都人と共に京都を語る能はず寧ろ市人が之れではドウしても往けぬと自覺する迄打ち棄て置くに如かずと論せられしも今日の西陣は今や既に死に瀕し居れり人情として之を救ふの工夫を講せざる可らず然らば如何にして此一大患者を救済するか余輩又説なきにあ

らざるなり。西陣機業家の意氣に乏しき所以、西陣機業家の頑冥にして自惚強き到底道理を以て論し理窟を以て導く可らず然れども若し實例を擧げ實物を示し徐ろに利害得失を説けば如何に西陣の機業家と雖も自から進んで取る事を知らざるも與ふれば否とは言はざるなり而して今日の西陣に於て尤も必要なるは機器を改善し學理を應用し一は以て製産費を節減し一は以て如何に多額の注文に接するも直ちに同一の品物を製織し得るが如き組織とし畜に内地の需用に止まらず更に進んで大に海外の輸出を計るにあり左れば第一に織物試験所若しくは模範工場等の如き者を起さざる可らず然るに曩きに國家は機械を貸與して之を設置せしめんとせしむる市は市の事業として自から之を經營する事をなさず西陣組合も亦之に任ずる能はず遂に二三人の事業と

して經營する事となりしも而も尙ほ未だ其設置を見る能はざる者余輩の常に遺憾とする處なり事茲に至れば余輩は西陣組合に對しても一言の批評を試みざる可らず既に苟も一ヶ年參千萬圓の製産額を有し其地方の一大富源たる西陣組合の如きにありては宜しく自から重んじ場合に依りては地方應位は意の如く動かし若し地方應の行動にして不可なる者あらば更に進んで主務省に交渉する位の意氣なかる可らず然るに今日の西陣組合に果して斯の如き意氣ある歟模範工場の如き若し市に於て設備する能はざれば宜しく速かに組合の事業として起す可し否な西陣組合にして此意氣だにわらしめば之を市設たらしむるも敢て六ヶ敷事にあらざりしなる可し更に昨今の如き不景氣に際しても組合は果して不景氣の原因を調査し之に對する處分方策等をも講究しつゝあるや否や西陣機業家は個人としては頗る自惚心強く唯だ徒らに尊大なるも團體としては毫も一致の力なく結合の

精神に乏しく自から輕じ自から侮り居る者の如きは西陣の發達せざる一大原因たるはあらざるなり要するに京都市人就中西陣機業家は進取の氣象に乏しく又意氣なし職工の如きも又少しく勉強し今少しく奮發すれば更に多くの仕事をなし更に多くの賃金を得るは敢て難きにあらざるも「モ一今日は之にて澤山なり」とて自から安じ夫れかと思へばヌラシラしつゝ存外多くの時間勞役しつゝあるが如きは西陣の通弊なり而して余輩は常に自から疑ふ西陣人に斯の如く意氣地なき者或は粗食の結果にあらざるなきかを聞く處に據れば府の學事當局者は又西陣地方の學齡兒童殊に体格の虛弱なるを認め大に運動す可しとの事を訓令せりと營養に乏しき粗食の兒童に向て無暗に運動せしめば夫れコソ或は却て斃れて而して後止むの奇觀を呈するなき歟。

▲西陣の前途又望みなきにあらざる 進取の氣象に乏しく與へざれば

取らざる西陣機業家に向ては先づ以て實例を示すの外なき事夫れ斯の如し左れば余の任務たる市立染織學校に於ても尤も實習に重きを置き努めて之れを一般機業家に縦覽せしむるの工夫を講ずる事とし、曩に市參事會に向て第五回博覽會參考館に出品しありしエム、ラスへ商會の新力織機及び繰返器械購入の事を要求せしに幸にして容れられ其据付も不日結了するを以て普く西陣の機業家を招き之を縦覽せしむる考なり今日の西陣機業家をして悉く此種の製織機を應用せしめんなを云ふ事は容易に望み得可らざるの事なるも既に多數の機業家にして今日の狀態に甘せず新式の織機を利用せんとの觀念だに起らしめば幸にして夫の水力電氣を使用するの便も開け居れば今日各機業家の利用しつゝある織機に幾分の改善を施し各自モートルを据付け人力に代るに電働力を以てする位の事は決して困難の事にあらざるなり斯の如くにして一面益々實業教育を奨励し根本的に西陣機

業家の觀念を一洗し、武陵桃源の舊夢を破り、自から進んで世界の競争場裡に起つゝの覺悟あらしめば、參千萬圓の製産額を増進して、四千萬圓とし、五千萬圓となすは易々たるのみ、一部人士の唱ふる如く、西陣機業は必しも前途の見込なきにあらざるなり、然らば其實業教育とは如何なる方法に據り如何なる手段を採る乎、乞ふ余輩をして今少しく説く處わらしめよ。

▲大に徒弟教育を奨励す可し、而して本市の實業教育としては曩に京都市教育會より市參事會に建議せし中學程度工藝學校の如きも勿論必要なり、今日の美術工藝學校及び染織學校も又大に擴張せざる可らず、然れども之れと同時にヨリ多く必要にして而も其効果又尤も著しきは職工徒弟學校の設置之れなり、論者動もすれば徒らに學校を増設するも、肝腎の子弟にして入學せざるを奈何せん、と主張するも、一般の市人にして徒弟教育を等閑に附すれば、尙更以て社會先覺の士若し

くは局に當る者に於て之が設備をなし之を奨励するの義務あるにあらずや、況んや先づ以て之が設備をし而して後着々奨励を加へなば社會も又靡然として之に向ふに至る可きをや、現に市立染織學校の如きも初は市内の子弟頗る稀なりしも、昨今追々増加し來年度は優に定員を超過するに至る可し、西陣機業地の如きも若し其設備だにわらしめば幾多の職工徒弟は自から入學するに至る可し、既に今日に於てすら一部の青年徒弟は其必要を認め如月會など云へる者を設け學識経験ある人士を聘し其講話を聞きし例すらなきにあらざるなり、其事に就ては余は曾て市教育會の委員として種々調査せし事ありしが、其組織如何に依りては經費の如きも頗る少額にて辨じ得可し、余の調査する處に依れば、校舍も敢て新築するの必要なく、寺院若しくは現在の小學校等を利用し、教員の如きも兼務とせば之を織物及び染物の二部に分ち、各二百名位の生徒を收容する事とするも、一ヶ年の經常費僅々貳千

圓内外にて辨じ得可し而して當業者は之が爲め別に徒弟の業務を缺くにあらずして唯だ其餘暇を以て就學せしむれば足れり而も其効果は直ちに事業の上に顯るゝに至るや明にして其自から裨益する處又決して尠少ならざるなり現に染物組合にては組合の事業として徒弟講習會なる者を興し教室は染織學校の一室を利用し毎夜二時間徒弟を集めて教授する事とし生徒は殆んど五十餘名に達し其成績頗る見る可き者あり然れども何様費用に乏しき爲め未だ十分に擴張する能はざるも若し市の事業として經營せば必らず成績を見るは余輩の確信する處なり今日の市費多端なりと雖ども四條礮の電氣裝飾に五千圓を投じて吝まざるを見れば徒弟教育の爲め貳千圓を投ずる決して不可能の事にあらず可し此外商業徒弟學校の設置又今日の急務たる可く陶磁器七寶刺繡其他の特有物産も又夫れ々々専門の智識を有する學者經驗家を聘し益々其事業の改善に力を盡さば京都市決して

財源なきを憂へざるなり必ずしも搾取主義専門の都市たらしむるの必要あらざるなり。

▲**惰弱の弊風を打破せざる可らず** 實業教育と共に京都策として又尤も必要なるは努めて市人情弱の弊風を打破する事是れなり由來京都は遊樂の地なり京都市人は遊ぶ事のみ考ふるの民なり歴史を緝くも平家の亡び藤原氏の衰へしは又遊樂に耽りし結果に外ならざるなり其遊樂も詩歌茶香音樂など多くは家内の娛樂のみなるは日本人の通弊なるも就中京都に於て甚だし木屋町の四疊半より蒲團着て寝たる姿の東山を眺むる事を知るも既に其東山に登る事さへ厭へり況んや千里の山野を跋渉し萬里の波濤を犯すの壯遊を試みるなど云ふ事は京都市人の夢にだもせざる處なり先づ以て此弊風を打破し大に剛健の氣風を養成するにあらざれば到底社會の激甚なる競争に堪ゆる能はざるなり而して此事たるや一朝一夕にして改むる能はざるも

社會上流の人士若しくは居常教育に従事する人々にして大に注意を加へなば漸次に改善する又決して難きにわらず。

▲京都は日本第六の都市なり 市人は尙ほ京都は日本第二の都市なり千年の舊帝都なりなど自惚れつゝあるも余輩をして忌憚なく評せしむれば此儘にては遂に第二の奈良たるを免れざるのみならず今日にては既に日本第六の都市なり即ち指を屈すれば東京大阪名古屋横濱神戸而して後京都と言はざる能はざるなり市人は京都の美術工藝品は日本の國産なりと自惚れつゝあるも眞に海外貿易品として取扱はれつゝある者果して幾干かある多くは皆觀光外人の土産として購ひ去るのみにわらずや即ち奈良の人形あられ酒漆器等と大小多寡の差こそあれ同一性質の者たるに過ぎざるにわらずや而も尙日本の國産海外輸出品と云ふを得可き歎京都市人たる者此際大に自から省みる處なかる可らざるなり。



博士千賀鶴太郎氏所見

京都策……之れ一言にして盡し得可し市人が利口に成つて商賈が上手に成つて金儲をするより外なし而して其事たるや人には各々考へあれば社會若しくは他人に於て又奈何ともする能はざるなり然れども一部の人々の思惟しつゝある如く遊廓を繁昌せしめ風光を利用して外國人の懷中を搾取らんなど云ふは探るに足らざるの議論たる事は又敢て喋々を要せざるなり仮令何程外人來りしとて知れた者なり況んや外人の來るは決して京都のみに來るにわらずして京都に來る者は必ず大阪に行き東京に往き又其他にも遊ぶ可し然るに京都市人が獨り之を以て唯一の憑みとするに至つては其愚や及ぶ可らず又或は曰く外人の京都に來る者は必らず此地に於て美術工藝品を購入

す、之れ大なる利益なりと成程吾輩の海外に在るの日に當りても屢々
 彼れ等外人の口より京都美術品の名を耳にせり然れども之れとて必
 ずしも京都に限るにわらずして横濱に於ても購求すれば東京に於て
 も購入す可し決して京都の獨占にわらざるなり。
 余輩が歐洲より歸朝して先づ第一に感せしは日本の市街の狹隘にし
 て不潔なる事是れなり、歐洲人殊に獨乙人なぞに彼地に在りて交際す
 れば頗る鄭重にして決して吾々を侮蔑するなを云ふ事あらざるも其
 獨乙人も一度日本に來れば多くは皆直ちに一變して尊大倨傲の人と
 なるは要するに日本の市街の狹隘にして不潔なる彼れ等の眼より見
 ては悉く小屋掛けにして家屋と認む者なく、概觀する處生活の程度
 又頗る低きより知らず識らずの間自から侮蔑の觀念を生ずるが爲め
 なる可し、成程日本人にても随分贅澤の生活をなし居る者なきにわら
 ず、随分敷奇を盡せし家屋なきにわらず然れども斯の如きは求めざれ

ば得可らず搜されば見る能はず、日本今日の狀態として歐洲各國の
 如く其家屋内には幾家族となく棲息し居るも外觀は頗る宏壯なる建
 築物檐を接し居れるなを云ふ事は到底出來得可らざるの事なれば此
 事情を解せざる彼れ等として自から侮蔑の念を生ずる又決して怪む
 に足らざるなり、歐洲人必ずしも悉く德義を重じ公共的觀念厚しと云
 ふ能はざるも都市の外觀を裝飾し市街の美を飾ると云へる事は先天
 的の義務と心得都市に住する者の任務と觀念し居れり、隨て歐洲の都
 市は凡て美術的に裝飾し居れり、伯林の如き家屋の建築に就ては尤も
 嚴重なる干渉を加へ家屋の体裁窓の大小若しくは其裝飾等まで一々
 干渉を加へ決して自由の構造を許さざるは、一は火災豫防取締等の必
 要より起りし者なきにわらざるも其の尤も大なる理由は美術的に市
 街の体面を裝飾せんと云ふに外ならず、若し今日の日本なをにて斯の
 如き干渉を加へなば多數の市人は必ず個人の權利を蹂躪する者なり

とて憤慨す可きも彼れ等は之を當然の事として又一人の異議を唱ふる者なし左れば橋梁の如きも通行の便と云へる事より寧ろ裝飾と云へる点に重きを置き、一小橋の架設工事に三年の日時を要するなき云ふは決して少なからざるなり今日の日本人に果して斯の如き觀念あるや否や客取り主義を標榜しつゝある京都市人の如き若し少しく此觀念あらしめば市區の改正道路の擴張又決して左程困難の事業にあらざる可し。

伯林の市政は尤も整頓し自治制度尤も發達せし地なりと稱す然れども多數の市民が悉く一々理窟を言ひ政治的の事にのみ狂奔するにあらずして矢張り政治は政治屋あり議員屋は議員屋ありて殆ど専門の仕事となり居り唯だ其政治屋議員屋は悉く十分の資産を有し一通りの知識を有する者が物好になす者のみにして決して之を以て職業とし生活の資に充んとするが如き者にあらざるなり尙多數の市民の

市税の負擔に對し毫も苦情を唱ふるが如き事なく現に所得税の如きは國税と市税と同一額に迄達し居るも一言の不平を唱ふるすらなきは市民の富の程度高さにも依る可れども要するに一般の市人が自治制度の何事たるを解し市の事業は即ち自分の事業たりとの觀念あり自分等の代表者たる當局者は信任せざる可らざる者なりとの觀念存するが爲めなり。

昨今一の京都策として問題となりつゝある遊廓問題に關しては余輩は一部の論者とは大に所見を異にする者なり遊廓を全廢するなと云ふ事は容易に斷行す可き事柄にあらざるなり伯林の如きも故老大帝の遺志にて遊廓を禁止せしも爾來警察部面にては取締上種々なる不便不利を感じ其再興を希望し居れるも大帝の遺志にて一旦禁止せし者なればとて未だ復興の運びに至らざるも而も之が爲め社會風教に幾千の利益する處あるかは一の疑問なり一部論者の主張たる遊廓を

隠れたる場所に置くといへる事は歐洲主義なり、獨逸の如きも柏林にこそ遊廓なきもハンブルク、ミュンヘン、ライプチヒ其他の各都市多くは皆遊廓あらざるなきも其位置は何れも隠れたる場所にて餘程其土地の事情を知悉するにあらざれば決して發見する能はざるなり、余輩も嘗て一二の友人と共に探検せし事ありしも容易に發見する能はず遂に或通人に案内を求むるに至れり、然れども唯だ單に遊廓を隠れたる場所に置きしのみにて社會風教に果して幾干の裨益する處あるか之れ又余輩の未だ直ちに解する能はざる處なり、成程學生取締等の上にて於ては多少の利益なきにあらざるも之を以て直に學生監督の途を盡せりと云ふ能はざるなり、歐洲各國にても中學生徒以下には學校に於て嚴重に取締り居るも既に大學生となれば、一の成人として敢て區々たる檢束を加へざる事となり居れり、獨り學生のみならず日本の官府若しくは日本の社會が風紀の取締と云へる事に尤も重きを措き尤

も周密なる干涉をなすは余輩は抑も何の意たるを解する能はざるなり、殊に日本の警察官が風紀の取締とて好んで私人の密事を摘發して人民の醜行を社會に暴露し以て計の得たる者なりとし得々たるが如きに至つては歐洲人の眼より觀察せば天下の奇異之より甚だしき者あらざる可し、歐洲各國にては此種の事は社會も警察も努めて秘密に附し、成る可く社會の表面より押し隠し、偶々旅人宿等にて遊廓の位置を問ふが如き者あるもボーイや下女に至る迄決して猥りに之を口にせず、柏林邊りにては密淫賣婦の取締には頗る困難し居るも而も彼等が客と同室し居れる場合若しくは公衆の注目し居るが如き場合にては如何に警察官と雖も決して之を摘發せず、必らず密かに忠告し密かに説諭を加へ、而して尙ほ改めざる者は密かに相當の處分を加ふることもなり居れり、況んや社會の新聞紙が猥りに之れを紙上に掲ぐるなど云ふ事は決してあらざるなり、左れば歐洲人の風紀道德必ず

しも東洋人より進歩し居れると云ふに在らず場合に依りては日本人などよりも更に甚だしく紊亂墮落せし點なきにあらざるも、皆社會の秘密として蔽はれ居れり、斯の如き有様なれば一部の貴婦人社會などにては自國の風紀が斯の如く紊亂し自國の婦人にも又随分墮落せし者ある事には自から心付かず却て遠く東洋婦人の墮落を憤慨しつゝあるが如き奇觀なきにあらざるなり。

一派の人々が京都の如く遊廓の各所に散在し居りては之が爲め徒弟を誤り番頭が自然悪事を犯すに至る可しなど杞憂するは抑も既に誤まれり、徒弟の墮落し番頭の悪事を働くに至るは自己監督の至らざるが爲めにして決して遊廓の罪にあらざるなり、獨逸に於ける習慣として他に被雇人となり他に奉口する者は必らず自から一の帳簿を製し其主家を去るに際しては奉公の年限は云ふに及ばず其性行の善悪其勤の有無其他詳細なる主人の証明を得て之を次ぎの主人に示し順次

に斯の如くにして其証明なき者は容易に被雇人たる能はざるの組織となり居れり、然るに曾て多年伯林に在りし日本の一紳士も數年間使役せし一僕の爲め「此者は誠に正直にして決して間違ある者にあらず、余は何年何月より何年何月迄此者を使役せしも未だ曾て一回も過失なし、誠に信用するに足る者なり」との証明を與へしに幾干もなく一の獨逸商人は突然此紳士を訪問し余は貴下の証明に依り何某なる者の誠に正直にして信用するに足る者たる事を諒せり、然れども其人が機敏の働をなし得可きや否やに就ては貴下の証明書に一言する處なし、願くば之を聞くを得度しと質問せしかば紳士は正直の點は保証するも十分機敏に働く者なりとの事は証明する能はずと答へしかば獨逸商人は余の希望する處は主人の命令に依りて尤も機敏に其業務に従ふとする人を得たしと云ふに在り、其人の正直不正直は敢て問ふ處にあらざるなり、余の商店にて人を使役する決して使用人をして悪

事をなさしむる如き不注意の事はなさいる可しとて暗に紳士を冷笑して去りし事ありたり之れ其一例に過ぎざるも要するに獨逸商人なその店務を監督するの嚴重なる使用人をして決して悪事を働くの追あらしめざるは比々皆然らざるなし然るに一派の論者は監督の至らざるを咎めずして却て罪を遊廓に移すに至つては抑も本末を誤れる者と云ふ可し況んや之れを以て遊廓移轉の最大理由とするに於てをや。

歐洲に於て獨逸主義と云へば即ち根本主義と云へる事を意味す獨逸人は一事一業と雖も決して苟もせず決して唯だ漠然社會の風潮に促され若しくは一時の流行に驅られ輕々しく新事業を起すが如き事あらざるも苟も其必要と認め善事なりと信せし以上は政府も國民も共同一致して勇往邁進如何なる困難をも辭せず如何なる障害をも排斥し斃れて而して止むの氣概を有するは獨逸人の特性なり獨逸帝國

の今日の如く勃興せし者其間種々なる原因存するも要するに此特性の然らしむる處に外ならざるなり余輩の初めて伯林に至りしは明治十七年の事なりしが當時歐洲各國は云ふに及ばず亞米利加邊りにても續々電氣鐵道の敷設せられ居りしに係らず伯林にては尙ほ電氣鐵道が果して市街の交通機關として故障なきや否やの調査中にして聞く處に依れば當時迄に既に其調査に三ヶ年を要せりと而して其尤も重なる試験は如何に苦心するも其運轉を停止するに當りて尙ほ多少精力を存するを免れざるより斯くては市内の交通機關として安全の者と云ふ可らずとて更に幾多の苦心經營を累ね後數年にして初めて一部の間に敷設し爾來着々工を進め余の獨途を去る當時即ち數年前に至りて初めて完成するに至れり然るに其完成せし者を見れば之を歐米各都市の者に比するに實に完美の者にして殆ど間然する處なし其他電話の架設も獨逸の各都市は之を其他の都市に比較すれば餘程

後れ居りしも今日にては殆んど普及して有りとも有らざる点迄利用せられつゝあるは流石は獨逸と云ふの外なし尙ほ自轉車の如きも其他の各國にては頻りに流行せしに係らず獨逸人は決して輕々しく之を用ひざりしも其一度必要の者たるを感ずるや其流行は實に非常の者にして伯林の如き至る處の街道人として殆んど自轉車を用ひざるなく其利用の方法又益々發達し居れり更に之を民法の改正に徴するも政府は數十年間の日時を費し非常の精細なる調査をなせり而も決して吾日本などの如く翻譯的に根本より改正するに在らずして一部の修正政刪に過ぎざるなり又以て獨逸人が一事一業と雖も決して苟もせざるの一斑を知るに足る可し。

然るに日本の現状を顧みれば政府も人民も輕佻浮薄唯だ摸倣之れ事とし毫も根據あるにあらざり又永遠の思慮あるにあらざり法律規則は所謂朝令暮改にして人民をして殆んど據る處を知らしめざるのみならず

す、社會人民も又昨は猫も杓子も自轉車に乗るかと思へば今は自轉車乗りなりハイカラなりとて冷笑に附し去り一時鐵道熱非常に熾なるかと思へば其の發達は存外遅々たり電氣鐵道は存外速かに出來しかと思へばホンの見本として敷設されし迄にて社會公衆が眞に其利便を感ずる迄の域に達する能はず電話電信等の事業又決して完美せし者と云ふ可らず斯の如くにして一國の發達を計り國民の利益を増進せんと欲するも豈得可けんや人は云ふ京都の人は因循姑息にして進取の氣象に乏しと夫れ或は然らん然れども余輩は寧ろ市人の唯だ徒らに世の流行に驅られ社會の風潮に動され輕舉妄動するを希はざるなり何んでも彼でも遣つて見る可し杯云ふ議論には賛成する能はざる者なり到底遣り得可き見込められば寧ろ初めより遣らざるに如かざるなり若し京都市人にして眞に慎重の態度を採り眞に其利害得失を調査しつゝある者ならしめば余輩は京都市人に對して尙ほ大

は如何なる發明をなし某博士某學士等は如何なる研究をなしたるなりなど云ふ事實を折々報道して彼我共に利益する處ありしめ度事是れなり然るに今日の京都市人が果して大學なる者に對して斯の如き觀念を有するや否や幾多の市人は今日に於てコソ漸く大學なる者の存在する事を認め居るも而も唯だ單に大學は學生を養成する處なりと認め居る迄にして決して學問の研究發明をなすの場所たるを知らざるにわらざる歎之れ余輩の常に遺憾とする處にして市人の爲にも又深く惜む所以なり。

今日歐米各種實業家の學問の研究發明に熱心なるは實に非常の者にして獨逸に於る一染料製造會社の如き専門の技師二百餘名を置き製品の監督をなさしめつゝあるの外更に八十名の學者を聘し十分の待遇をなし十分の時間と十分の費用とを與へ専ら製品の改良發明を研究せしめ居れり而して二年或は三年間に何か少しの發明にてもなし

得ば非常の幸福とし直に其會社獨特の製產品とし以て世に誇り自ら利せざるなし之れ其尤も著しき者なるも其の他の各會社各工場と雖も各大小の學者を聘し若しくは學者と聯絡を通じ製產品の改良進歩を計らざるはなし斯の如き有様なれば歐米各國に於ける製産事業の日に月に進歩發達するは又決して偶然にわらざるなり更に事業家が學者の力に依りて大なる利益を得し一例を擧ぐれば獨逸に於て有名なるエナノ顯微鏡製造會社にては多年獨逸學界の泰斗たる博士プレスヒン氏を聘し幾多の助手を附屬せしめ幾多の費用を支給し専ら各種の研究に従事せしめつゝありしが此程に至り博士は遂に苦心經營の結果學理に依り一種の遠望鏡を發明し人間の目と目との距離を遠くし随つて如何なる遠距離にても唯だ一の眼鏡に依りて直ちに其距離を知るを得可き事とし此眼鏡に依れば星と星との距離の如き容易に測量し得可きに至りしより到る處非常の高評を博し今日は

の軍用品として尤も廣く世に行はれ、當に會社に於て非常の利益と非常の名譽とを博せしに止まらずして、博士も亦至る處の學會等に於て益々尊敬せらるゝに至れり。

然るに顧みて今日の日本に於ては幾多の實業家に果して斯の如き觀念あるや否や、現に京都帝國大學教授吉田博士の如き多年苦心の結果遂に漆に就て非常の大發明をなし、從來漆の色は唯だ二三種に止まりしも博士發明の結果有りとも有らざる色を顯はし得べき事となせしかば英國の某學會は遠く博士の功勞を賞賛し名譽金牌を贈與するに至れり、然るに肝腎の日本に於ては幾多の漆器業者も博士に就て之を應用するの工夫を講せざるのみならず、政府當局者の如きも英國の學會に於て此舉ありしを聞き初めて金杯を贈り以て博士の功勞を表彰するに至れり、日本の實業家及び國家の學問に對し冷淡なる事夫れ斯の如く而も尙ほ歐米各國と對比して製産事業の改良進歩を計らんとす

る抑も又難しと云ふ可し、然れども余雅と雖も今日の日本の實業家殊に京都實業家に對して直ちに獨逸商人の如くなる可し、直ちに幾多の學者幾多の經驗家を聘し各學理應用の研究をなす可しなと云ふ事は容易に望み得べき事柄にあらざるを認識し居れり、然れども幸にして國家の事業として設置せられし京都大學の如き者存すれば幾多の商工業者にして若し其意志にあらしめば之を利用する決して困難の事業にあらずして彼我に裨益する處又決して尠少ならざるを確信する者なり。

博士山口鏡之助氏の奮て獨逸に遊ぶや同國某大學教授は博士に謂つて曰く「米國及び英國等は鐵材に豊富なるを以て幾多の鐵材を利用して橋梁を架設するも獨逸は鐵材に乏しきを以て數學を利用して堅牢なる橋梁を架設せり、鐵の橋と數學の橋と何れが堅牢なるや願くは一覽せられたし」とて態々二三の橋梁に案内せし事ありたり而して

某教授は「鐵材には限りあるも數理には蘊奥なし之れ吾國の將來永遠に英米諸國と競争して敢て一步を譲らざるを自信する所以なり」と語り居りしと、又以て獨逸人が如何に學問の應用と云へる事に重きを置き、如何に自信自重の念に富むかの一斑を知るに足る可し、獨逸帝國の勃興せる全く學問の力に依る者なりと云ふも決して謬言にあらざるなり、換言すれば即ち今や世界の商工業者は學問發明の競争に汲汲たる者なりと云ふも不可なし、斯の如き有様なれば日本の學者日本の技術家等が歐米各國に至るも各國の學者各國の技術家が之に示し之に教ふる處の者何れも皆既に一定の年限を経過し發明者は既に之に依りて十分の利益を得若しくは既に世に公表せし者のみにして決して或程度以内の秘密迄示すが如き事あらざるなり、左れば日本の製業者にして真に歐米各國の製産事業と競争せんと欲せば日本は日本として自から研究發明するの工夫を講せざる可らず、一面より云へば

學問は世界の共用物にして各國は各其割前を出して共に與に改良發達の工夫を講じつゝある者なるも、日本は未だ其割前を出さず而して其恩典に浴せんとする者なれば日本の製産事業の發達せざる又敢て怪むに足らざるなり。

世界の夫れ斯の如し然るに日本は獨り啻だに其割前を出し自から研究發明する事をなさざるのみならず、京都の實業家の如きに至つては、歐米に於て既に一定の年限を経過し既に業に世に公表せし學理すら應用する能はざるにあらざるなき歟、余輩は京都に來りし以來常に感じつゝあるは、由來京都の一物産たる染物の如きよし退歩せざる迄も毫も改良進歩の跡を認めず、新なる研究發明をなせし杯云ふ事は絶て耳にせず若し營業者にして學者と共に與に研究するの意志にあらしめば學者は學者當然の任務として一臂の力を添ふる事を惜まざる可し、吾理工科大學の如き又喜んで共に其研究に従事す可し、然るに

今日迄絶て斯の如き事を聞かざるの一事なり、其他西陣機業の如きも、日本の織物は日本の織物として特長あり、日本の織機は日本の織機として特種の点なきにあらざれば、必ずしも歐洲の織機を其儘用し、歐米人の發明せし學理を其儘應用せずとも、日本は日本として更に改良進歩の途なきにあらざる可し、然るに當業者の絶て心を茲に傾くる者なきもの、如きは余輩の解する能はざる處なり、兎に角今日の日本殊に京都の如きに於ては一般商工業者をして學問の尊き事、學問と商工業とは離る可らざるの關係を有するものたる事を知らしむるは刻下の急務なり。

由來京都は日本文化の中心たりし歴史を有し、尤も文學歴史の材料に豊富なるのみならず、今日の地勢今日の位置より云ふも、關西教育の中心として幾多の公私立學校を此地に設置し、幾多書生を此地に吸集するは尤も適當の事業なり、京都の發達せざるは周圍の刺戟なきと、他地

方人の入り込み來る者少きは慥に其一大原因ならずんば非ざるなり、東京の如き年々幾多の學生此地に集り來り中には隨分風紀を紊亂し風俗を頹破せしむる如き者なきにあらざるも、而も之が爲め市人をして自から活動せしめ社會の空氣をして自から新らたならしめつゝあるの効果なきにしもあらざるなり、此地に於て中川小十郎氏等の設立せる夫の法政學校の如き益々發達しつゝあるは誠に喜ぶ可き現象なるが之れと同時に曾て東京に於て設置せられし工手學校の如き者を設置し簡易の學術技藝を教授し、恰も軍隊に於ける下士官即ち技師を補け職工を督勵して工事に従事するが如き人物を養成するは京都製産事業の進歩發達する上に於ても尤も必要の事業たる可し、此事は曾て中澤博士等に依りて企畫せられつゝありしも、今尙は其實行を見ざるは京都市人の爲めに深く惜む處なり。

京都鐵道會社取締役 伴直之助氏談論

▲京都人の褊狹は先天的にあらず 京都の將來を論せんと欲せば先づ以て京都の既往を語らざる可らず余輩の初て京都に來りし明治十七八年頃の京都市人は決して今日の如く因循姑息唯だ徒らに引込思案のみを講ずるが如き市人にはあらずりし當時の市人は決して今日の如く猜疑嫉妬の念に富み褊狹他と相容るゝ能はざるが如き市人にはあらずりし余輩の此地に來りしも又今の濱岡光哲氏に知られしに據る者にして新聞事業より云ふも城多虎雄三崎龜之助など云へる鬼に角當代の名士相前後して此地に入り市の有力者は皆喜んで之れ等人士の言を聞き此人々の言論を容れ更に一面には府の公費を支辨し俊秀の子弟を選抜して續々海外に留學せしめ内には熾かんに教育を奨励し勸業に努むる等之を近く大阪に比すれば常に一步を先んじ其

當時に於ける關西の中心は政治たるを問はず凡て大阪に在らずして京都に存し商工會議所の意見の如きも大阪の意見よりも京都の意見に重きを措かれ今の商工銀行の如きも又此銀行を以て市内百有餘商工組合の中心とし市内商工業者の金融機關となり以て市の發達を計り繁榮を期す可しと云ふ尤も進歩せる理想と尤も大なる抱負とを以て創設せられし者にして之と同時に各種の新事業は續續として起り一般の市人も又尤も能く一致團結し市の重要問題は市の重なる人々に依りて直に決定せられて又敢て一人の故障を唱ふる者なく和氣譏然たる間に諸般の事業は着々として進歩し其間又絶て猜疑嫉妬の念なく自から相排擠し他地方人と相容るゝ能はざるなど云へる思想は毫も當時の市人に認むる能はざりし然るに今日に至つては全く一變するに至りし者抑も如何なる原因に依るか余輩未だ十分の講究をなすの遑あらざるも兎に角其後京都の發達遲々たる所以

の者全く此思想の一變せしに依るものたるや又疑を容れざるなり。

▲博覽會後の京都 尤も進取の氣象に富み尤も能く人を容るの雅量ありし京都市人の特性一變して今日の如きに至りし者果して如何なる原因なるや未だ知る能はざるも兎に角第四回勸業博覽會の開設が京都の社會に一大變化を來せしは又疑なき事實なり博覽會開會前に於ける京都の衰頹は既に非常の者にして心ある人々は頻りに京都の前途を杞憂し種々なる工夫を講じ一部の人々は田口卯吉氏杯にも其意見を叩きし結果博覽會と共に遷都紀念祭を催はし平安神宮を起し大に人氣を鼓舞する事とし恰も又京都鐵道も工事に着手し一時洛陽の人氣は湧くが如く市人は之を以て計の得たる者とし得々たりしも何ぞ知らん此一舉は端なくも市人をして唯だ徒らに輕佻浮薄に流らしめ奢侈に陥らしめ而して其後の事業は之に伴ふて起らず所謂浮いたる金に贅澤を極めしも一時の夢に過ぎざりしより社會の空氣は益

益腐敗し都人の徳義は益々頹破し由來京都市人の一大美德たりし質素勤儉の風又再び見る能はず加ふるに戦後經濟界の變動は更に此弊風を助長して滔々風をなし遂に又奈何ともす可らざるに至れり僅々二十一年間に於ける京都の變遷夫れ斯の如し左れば今後の京都に處するも又一面努めて此弊風を打破し勤儉の美風を養ひ更に一面に於ては大に根本的に實業の振興を計らざる可らざるは又云ふ迄もあらざるなり然らば如何にして此弊風を打破し如何にして實業を振興する乎請ふ余輩をして説くあらしめよ。

▲人物の輸入は勿論必要なり 京都の前途を経営するに就ては努めて新人物を輸入せざる可らずとは何人も唱ふる處なるが余輩も又尤も必要なる京都策として之に賛成する者なり試みに全国各地の現狀に徴するも東京大阪は云ふに及ばず名古屋神戸横濱其他門司等の如き疑々として發達しつつある地方の勢力は何れも皆他地方人に依り

て占められつゝあるにあらすや、之に反して吾京都は獨り他地方人を容るゝ能はざるのみならず、曩には府の公費を以て海外に留學せしめ、文明の學術技藝を研究せしめし近藤徳太郎、稻畑勝太郎など云へる人々も何れも皆京都人士と相容れず去つて他に事業を經營し其然らざる者も又絶へて此地の爲め力を盡す者なきにあらすや、之れ京都の發達せざる一大原因たらすんばあらざるなり、左れば今日の策は他地方人たるも士着人たるも問はず努めて新人物を利用するにあり。

▲自から率ゆるの覺悟なかる可らず、而して之と同時に凡ての市人就中紳士紳商其他苟も一の事業を經營する人々の尤も注意せざる可らざるは、勤勉精勵自から率ゆるの覺悟なかる可らざる事是れなり、千賀博士の論せし如く己れの足らざる事に心付かず而して番頭丁稚に不正の行爲あれば罪を社會に嫁するが如き事にては到底今日の社會に起つ能はざるなり、余は曩年西陣機業地を調査せし事ありしが職工徒

弟は何れも澤庵と茶漬にて僅かに露命を維持し而して晝夜勞役に従事せり、職工徒弟既に斯の如くなれば一家の主人又勢其家庭に在りては粗食に甘せざるを得ず、而して一度家庭を離れば無暗に贅澤を極め時には荒亡流連歸るを忘れ番頭や丁稚は青樓旗亭に其主人を捜し歩くが如きは往々見る處の事實なり、斯の如くにして獨り番頭丁稚や職工徒弟に正直なれ勤勉なれと云ふも豈得可んや、先づ以て此弊風より矯正するにあらざれば如何に織機を改善するも如何に取引法を改むるも西陣機業の發達遂に期し得可らず、獨り西陣機業家のみならず、堂堂たる紳士紳商にして毎日午前十時頃迄は往先を知る能はざる者あり、妾宅や青樓より電話を以て行員社員に指揮命令する重役あり、毎朝遊廓より車を驅つて店先に横着にする旦那あり、而して獨り其部下に對して勤勉なれ正直なれと云ふも豈得可んや、先づ以て此弊風より打破するにあらざれば百の京都策あるも京都の振興は遂に期し得可ら

ざるなり、左れば京都市今日の計は所謂紳士紳商をして實踐躬行自から率るの覺悟あらしむるの外なし。

▲一致團結の精神なかる可らず 京都市人は啻に他地方人を容るゝ能はざるのみならず、又常に自から相排擠するの弊風あり、聞く支那人の如きは郷黨若しくは同業者團結の精神頗る鞏固にして甚だしきは乞食物貫ひに至る迄各團結ありて其利得を保護し容易に他の侵害するを許さざると同時に同業者は又固く其徳義を守りて決して抜け駆けに利益を壟斷するが如き事なしと西陣機業家其他の如きも若し此精神を以て啻だに自己の利益を増進するに止まらずして進んでは其事業の發達を計り、一地方の富源を増進するの覺悟だにあらしめば種種なる情弊は自から矯正せらるゝに至る可し、之れ又京都實業振興の一策たらずんばあらざるなり。

▲俱樂部を設置す可し 而して此弊風を打破し一致團結の氣風を養

成するには清潔なる實業家の俱樂部を設置し、面倒臭き京都的の階級を置す所謂紳士紳商も青年子弟も時々一堂に會合して時事を談じ娛樂を共にし、共に與に地方の利益を増進する所以の途を講究せば其社會に裨益し又各自に利する處決して少なからざる可し、一小事なるが如きも年々市議事堂に於て開催する年賀會の如き唯だ一堂に會しお目出度の交換を成し其儘散會せしめて何の利益もなく何の趣味もあらざれば尙ほ東京實業家の間に於て行はれつゝある年賀會の如く豫じめ代表者を選定し其年の經濟界の豫想談を聴くが如き頗る必要の事なりとて替て内貴市長にも賛成を求めし事あるも今尙ほ實行を見ざるは遺憾なり、兎に角多數の實業家が時々一堂に會合し時事を討究するは頗る必要の事柄にして又京都の情弊を打破するの一策たらずんばあらざるなり。

▲大に圖書館を起す可し 由來京都實業家の人を使役するは頗る酷

薄にして毫も之を導き之に教へ以て永遠に彼此共に利せんとするの考へなし而して其青年徒弟が遂に第二の京都商人たるかと思へば實に寒心に堪へざるなり而して之に教へ之を導くには徒弟學校の如き者を起すも勿論必要の事たるを失はざるも余輩の意見にては先づ以て卑近なる圖書館を各所に設立し青年子弟をして隨時に之を觀覽せしむるの便宜と與へ而して一般實業家は努めて徒弟を勸誘して讀書の趣味を感ぜしむる事とせば知らず識らずの間知識を増加し又自から風紀を矯正し彼我利益する處決して抄なからざるを確信し此程二三の人士にも頻りに之を勸誘し居れり。



博士木下廣次氏所論

京都の前途を如何に經營し如何にして此舊帝都の繁榮を將來永遠に

維持するか是れ頗る大なる問題にして容易に斷定し得可き事柄にあらざるなり論者の所謂新人物新智識の輸入も遊廓の移轉も積極的實業の振興も將又其他の問題も何れも皆必要にして京都の繁榮を將來に維持する所以の一策たらざるなし然れども唯だ單に其二若しくは其二三のみを以て直ちに京都策の得たる者とし安ずる能はざるなり果して然らば何を以て完全なる京都策とし何を以て京都の發達を計り何に依りて京都の繁榮を維持するか之れ余輩局外者の未だ容易に斷定し能はざる處なり。

抑も都市の繁榮を維持し發達を期する上に於て新人物新智識の必要なるは又云ふ迄もあらざるなり歐洲各國の歴史に徴するも苟も興隆しつゝある都市の勢力は常に新なる人物に依りて左右せられ日に興隆しつゝある都市の事業は新なる智識を有する他地方人に依りて企畫經營せられつゝあるは比々皆然らざるなく換言すれば即ち人物の

新陳代謝は都市を興隆せしむる所以の一大要素と云ふも決して不可なし、佛國巴里の如き尤も古き歴史を有し、一般市人も又尤も其土地と云へる觀念に富むに係らず、常に社會に活動し社會に勢力を占め革命を企つるが如き人々は何れも皆新に他地方より入り込み來りし者のみにして眞の巴里ツ子と稱する者に至つては殆んど見る能はざるなり、獨り巴里のみならず其他の各都市と雖も其土地は古く其都市は久しきも其繁榮は常に新なる人物に依りて維持せられざるなし、更に近く之を吾國の事實に見るも東京に於ても眞の江戸ツ子なる者果して幾干かある、大阪に於ても少しく頭角を顯はし社會の表面に立て活動しつゝある人々は果して眞の大阪人なる歟、名古屋市の日に發達の氣運に向ひつゝある者果して土着人の力に依る歟、之れ等の事實に徴するも又以て都市の發達は到底土着人のみに俟つ能はざる事を証明する者と云ふ可し、而して斯の如き現象を示す者蓋し之れ社會自然の

結果にして又敢て深く怪むに足らざるなり、然らば社會の事は凡て新人物と新智識とに依らざる可らざるが都市の繁榮は新なる移住民に一任して土着の人士若しくは古老の人々は遂に無用の長物として社會より排斥せざる可らざる乎、否々決して然らざるなり、人生諸般の事進取すると同時に自から守る事を知らざる可らざる如く都市の繁榮を計り發達を期する上に於ても又新舊相俟つて共に與にするの用意なかる可らず、殊に尤も古き歴史を有せる國家若しくは都市の如きに至ては此新舊兩者適當に調和して一方に偏せず一面新人物新智識に於て各種の施設經營をなすと同時に他面に於ては努めて其國其都市の歴史其國其都市と云へる觀念を没却せしめざるの覺悟なかる可らず、如何に其土地の發達を計り繁榮を期するに急なればとて其國其都市と云へる精神を没却すれば其國其都市は既に滅亡する者にして其國其都市の繁榮發達と云ふ能はざるなり、而して此の事たるや之を新に

移住せし新人物に需む可らざれば要するに土着の舊人物に於て之に
 努めざる可らず佛國が李國と戦ひて敗北し城下の盟をなせしに係ら
 ず尙ほ今日の体面と位置とを維持する所以の者佛國人の舉國一致其
 國と云へる觀念を失はざるが爲めなり吾京都の如きも唯だ單に繁榮
 を計り發達を期せんとするの目的ならしめば斯の如く四面梗塞の地
 に於て汲々たらんよりは寧ろ他に適當の地區をトして移轉するも可
 なる可く各々神戸若しくは大阪等に移轉するも又不可なかる可く而
 して其間又敢て歴史も土地と云へる觀念も要せざるも既に苟も京都
 策と云へる以上は飽くまで其歴史其土地と云へる觀念なかる可らず
 隨て其土地を裝飾し其土地に於て事業を企畫經營する上に於ても常
 に其觀念と相離る能はざるなり果して然らば土着舊人士の任務又重
 しと云ふ可し然れども余輩の所謂土着の舊人士とは少くも土地と云
 へる觀念を有し社會公共と云へる事を解する人々を指す者にして唯

だ徒らに自己の利益に汲々たるの外又他事なきが如き人々を云ふに
 在らざるなり余輩をして云はしむれば此種の人々をコソ寧ろ一日も速
 かに去つて他の利益多き土地に移住するに如かざるなり。
 佛國巴里に於て替て市内高架鐵道架設の議あるや市會は大多數を以
 て之を否決せり而して曰く斯の如きは佛國の歴史を顧みざるの議論
 なり巴里の特色を損じ巴里の本色を失墜するを省みざる無謀の輕舉
 なりと更に又一時ナポレオン皇帝の宮殿及び同帝室の建造物等は斷
 然之を破壊し國民をして又再び帝室を想ふ者なからしめ以て全く帝
 政主義の跡を絶つ可しとの議起るや而も尤も極端なる共和主義の一
 領袖にしてナポレオン皇帝の名を聞くに戰慄する程なりしドット
 ルナツケー氏は斷然之に反對して曰く吾々と雖ども此宮殿を以てナ
 ポレオン皇帝の宮殿と思ひ此建造物を以てナポレオン帝室の建造物
 と思惟せば見るに肩とせざるなり然れども之れナポレオン皇帝の

宮殿にわらずして佛國の宮殿なり佛國の歴史なりナポレオン帝室の
 建造物にわらずして國民の建造物なり國民の紀念なり然るに今之を
 破壊するは一國の歴史を破壊し國民の紀念を破壊する者なり凡そ世
 界に國する者各歴史ありて初めて國家的思想生じ國家的觀念起る歴
 史なきは即ち國家なきなり歴史を認めざるは即ち國家を認めざるな
 り余は身を犠牲に供するも此無謀の舉に反抗せざるを得ずと即ち又
 敢て一人の異議を唱ふ者なく同建築物は永く佛國の紀念として保存
 せらるゝに至れり極端より極端に奔り其勇往直進するに當りては又
 殆んど前後の思慮なき者の如きは巴里市人の特性なり而も當時は革
 命の餘焰尙ほ未だ止まずナポレオン帝室に對しては殆んど敵國の想
 をなせしの時なるに係らず其一度國家歴史と云へる事に及べば驟然
 自ら悟る處ある夫れ斯の如し決して吾國民の如く唯だ一時の客氣に
 驅られ一時の空想に流れ無暗に歴史を破壊し猥りに國家の紀念物を

破毀して顧みざるが如き事あらざるなり況んや歴史は啻だに其國民
 をして國家的觀念を喚起せしむるに於て必要なるのみならず外人の
 其國に遊ぶ者をして其國の現状を見ると同時に其國の今日あるに至
 りし所以を知らしめ而して其歴史の紀念物は何人も尤も見んと欲す
 る處にして又何人も尤も多くの趣味を感ずる者たるに於てをや左れ
 ば今日世の論者が京都策を講究するに當りても唯だ一方の施設經營
 のみに急にして名勝舊蹟又顧みるに及ばざるなり殿堂伽藍を擧げて
 工場となすも又可なりなと云ふ極端の議論は余輩の首肯する能はざ
 る處なり然れども余輩と雖ども決して今日の殿堂伽藍は悉く保存せ
 ざる可らず今日の名勝舊蹟は悉く維持せざる可らず之が爲めには幾
 多の經費をも支出せざる可らず之が爲めには幾多の勞力をも吝むに
 足らずと云ふに在らざるなり是れ余輩が新舊兩思想の調和と新舊兩
 人物の配合とを今日に必要とする所以なり